

Foreign Language Courses Registration Guide 2025

～ 外国語科目履修の手引き ～

**School of Political Science and Economics
Waseda University**

Welcome to the School! Congratulations on your efforts!

- 本冊子は政治経済学部における外国語科目の履修案内です。
- 入学手続きの際の外国語の選択にあたって、本冊子を熟読してください。
- 特別な履修を希望する場合には、Web入学システム(UCARO)で「レベルアップ希望【対象者のみ】」の申請が必要となります。対象の方は、Part 3の「4.「レベルアップ希望【対象者のみ】」の申請要領」をよく読んでください。

はじめに

— 学ぼう！使おう！外国語 —

外国語が聞こえるキャンパス 早稲田大学のキャンパスでは、しばしば外国語が耳に入ります。やがて皆さんも、外国語を使う人たちと友人になり、外国語で行われる授業に参加し、自分も外国語で発表するようになるでしょう。早稲田大学に入学したからには、受け身ではいけません。これからは、皆さんが外国語を使いこなすのです。

学ぶ計画を立てよう！ 政治経済学部で学ぶには、外国語を使いこなせなければなりません。そのためには、もちろん努力が必要です。外国語の習得は、決してやさしくありません。しかし、皆さんが無理なく外国語を学べるように、カリキュラムが組まれています。これに従って勉強を進めるように、計画を立ててください。

外国語必修科目は、配当されている学年（あるいは学期）で、確実に単位を取得してください。それ以降に履修を延ばしてしまうと、自分の希望する科目が取れなくなったり、就職活動に影響したり、さまざまな問題が生じます。

もう1つの外国語？ すべての政治経済学部の学生は英語（外国語Ⅰ）を学びますが、それに加えて、もうひとつの外国語（外国語Ⅱ）も学びます。外国語Ⅱでは、学期ごとの到達目標を明らかにしたコースを準備しています。またⅠコース（インテンシブコース）もあり、初めて習った外国語でも、かなり使えるようになります。

学ばなくては損！ 外国語の習得によって開ける可能性は無限です。せっかくの大学生活ではありませんか。卒業必要単位だけで満足しないで、もっと広くもっと深くもっと多くの外国語を勉強しましょう。

使える外国語が身につくように、私たちは皆さんを支援します。

政治経済学部

目 次

はじめに ― 学ぼう！使おう！外国語 ―

Part 1 基本情報	
1. 共通の要件	4
(1) 科目と外国語の種類	
2. 「外国語Ⅰ」の履修規則 ― 効果的な英語学習のために ―	4
(1) 英語 Tutorial【必修】の履修について	
(2) 英語 Writing【必修】の履修について	
(3) 英語 Reading【必修】の履修について	
(4) 英語 Theme-Based Studies【選択必修】の履修について ※2年次配当科目	
3. 「外国語Ⅱ」の履修規則 ― 英語以外の外国語を効果的に学ぶために ―	6
(1) コースの選択	
(2) 各コースの履修モデル	
(3) 履修する上での各種連絡事項	
参考：共通参照レベル	10
Part 2 各外国語の授業内容	
1. 英語	11
2. ドイツ語	14
3. フランス語	19
4. ロシア語	23
5. 中国語	27
6. スペイン語	31
7. イタリア語	36
8. 朝鮮語	37
イタリア語・朝鮮語選択の場合の注意点	38
Part 3 諸手続き	
1. 英語 Writing/Readingの履修について	39
2. 外国語Ⅱ（第二外国語）の履修について	39
3. 外国語Ⅱ選択の際の注意事項	40
4. 「レベルアップ希望【対象者のみ】」の申請要領	41

Part 1 基本情報

1. 共通の要件

(1) 科目と外国語の種類

・外国語科目は、「外国語Ⅰ」「外国語Ⅱ」の2種類で構成されています。

部門名	科目区分	科目名	時間数	必要単位数
グローバル科目	外国語Ⅰ	必修：英語 Tutorial (Tutorial English A/B) * 1	週2回	A、B各1単位 合計：2単位
		必修：英語 Writing * 1 Academic Writing and Discussion in English α (Essentials for Beginners) / β (Academic skills for Intermediate learners)	週2回	α、β各2単位 合計：4単位
		必修：英語 Reading (Language, Economics, and Politics)	週2回	2単位
		選択必修：英語 Theme-Based Studies	週1回 または 週2回	異なる副題の科目を2科目以上 合計：4単位以上
	外国語Ⅱ	必修：以下言語より1言語を選択 ・ドイツ語 ・フランス語 ・ロシア語 ・中国語 ・スペイン語 ・イタリア語*1 ・朝鮮語*1 ・日本語*2	週2回	Sコース： 6単位以上 Iコース： 12単位以上 Kコース： 7単位以上 KIコース： 11単位以上 KJコース： 9単位以上 イタリア語： 6単位以上 朝鮮語： 6単位以上 日本語： 6単位以上

*1: 英語 Tutorial、英語 Writing、イタリア語、朝鮮語はグローバルエデュケーションセンター（GEC）設置科目

*2: 日本語は日本語教育研究センター（CJL）設置科目。特別な場合を除いて外国籍の学生または外国学生入試で入学した学生のみ履修可能

2. 「外国語Ⅰ」の履修規則 — 効果的な英語学習のために —

(1) 英語 Tutorial【必修】の履修について

すべての新入生は1年次春学期にクォーター科目として自動登録されるGEC設置科目「Tutorial English A/B」を英語 Tutorialとして履修します。入学前にWeb上にて受験する「LANGX Speaking」のスコアを基にレベルごとにクラスが振り分けられます。

【当該科目が不合格となった場合】

秋学期政治経済学部設置科目の「英語Tutorial (English Workout)」（再履修者用）を履修するか、自身にて聴講料を支払いの上、再度「Tutorial English A/B/C/D」を履修することになります（A～Dのいずれか2つを合格し、計2単位を取得する）。なお、すでに年間の登録算入単位数が40単位以上の場合は、2年次以降の登録・履修となりますので注意してください。

(2) 英語 Writing【必修】の履修について

すべての新入生は1年次春学期、または秋学期にクォーター科目として自動登録されるGEC設置科目「Academic Writing and Discussion in English α (Essentials for Beginners) / β (Academic skills for Intermediate learners)」を履修します。入学前に実施されるCASEC（オンライン試験）のスコアを基にレベルごとにクラスが振り分けられます。※1

【当該科目が不合格となった場合】

2年次以降、自身で科目登録を行い、再度「Academic Writing and Discussion in English α (Essentials for Beginners) / β (Academic skills for Intermediate learners)」を履修することになります。

(3) 英語 Reading【必修】の履修について

すべての新入生は1年次春学期、または秋学期に自動登録される「英語Reading (Language, Economics, and Politics)」を履修します。入学前に実施されるCASEC（オンライン試験）のスコアを基にレベルごとにクラスが振り分けられます。※1

【当該科目が不合格となった場合】

2年次以降、不合格となった科目の再履修が必要となり、不合格となった科目と同じレベルのクラスが自動登録されます。

(4) 英語 Theme-Based Studies【選択必修】の履修について （2年次配当科目）

2年次に開講される英語 Theme-Based Studies科目のうち、2科目以上（4単位以上）が選択必修となります。1年次11月に実施されるCASEC（オンライン試験）のスコアを基にレベル分けが行なわれ、取得スコアが上位30%だった学生は、**週1回2単位**科目である「English Seminars」科目を、それ以外の学生は、**週2回2単位**科目である「English Language Courses」科目をそれぞれ履修します。自動登録はされませんので、2年次以降、自身の好きなタイミングで2科目以上（4単位以上）を履修することができますが、2年生が優先して科目登録されるため、2年次での履修を推奨します。

【当該科目が不合格となった場合】

次学期以降、自身にて科目登録を行なってください。
一度不合格となった科目でも再度履修することが可能です。

注意事項

- 英語 Theme-Based Studiesには様々な副題の科目がありますが、同一副題で履修できるのは1科目のみです。
例) 春学期に「Regional Studies」の単位を取得した場合、秋学期に同じ副題の「Regional Studies」は履修できない。
- 「English Seminars」の履修はCASEC（オンライン試験）試験結果の上位30%が対象者となります。

【詳細については本冊子Part 2「1. 英語」（11ページ以降）にて説明】

※1 レベル変更は原則行いませんが、レベルに関するご相談は春学期3次登録期間終了まで受け付けます。

3. 「外国語Ⅱ」の履修規則 — 英語以外の外国語を効果的に学ぶために —

(1) コースの選択

外国語Ⅱを学ぶときには、学ぶ言語を選択の上、それを学ぶためのコースを選択する必要があります。

対象者	コース名	概 要
未習者	“S” コース (スタンダード)	今まで学習したことがない言語の、基礎的な学力を身につけるためのコース。 <u>初級Ⅰ・初級Ⅱ・中級Ⅰ</u> を履修します。
	“I” コース (インテンシブ)	今まで学習したことがない言語を、本格的に身につけようとする人向けのコース。週4回の授業でみっちり語学力を鍛えることができます。 <u>インテンシブ初級Ⅰ・インテンシブ初級Ⅱ・インテンシブ中級Ⅰ</u> を履修します。
既習者	“K” コース (既習者)	「外国語Ⅱ」として用意されている外国語を、学んだことのある人向けのコース。または、入学試験で選択した外国語（英語以外）を「外国語Ⅱ」として履修する場合のコース。 <u>中級Ⅰ・中級Ⅱ・外国語実践演習Ⅰ</u> を履修します。
	“KI” コース (既習者インテンシブ)	既習外国語をより深く学びたい人のためのコース。1年次において、週4回の授業でみっちり語学力を鍛えることができます。 <u>インテンシブ中級Ⅰ・インテンシブ中級Ⅱ・外国語実践演習Ⅰ</u> を履修します。
	“KJ” コース (既習者上位レベル)	“K” コース該当者で、すでに当該言語を3年以上学んだことがある人向けのコース。 <u>外国語実践演習Ⅰ・外国語実践演習Ⅱ・外国語実践演習ⅢA</u> を履修します。

(2) 各コースの履修モデル

各コースの履修モデルについては下記表の通りとなります。

コース名	1年次 春学期	1年次 秋学期	2年次 春学期
“S” コース (スタンダード)	初級Ⅰ	初級Ⅱ	中級Ⅰ
“I” コース (インテンシブ)	インテンシブ初級Ⅰ	インテンシブ初級Ⅱ	インテンシブ中級Ⅰ
“K” コース (既習者)	中級Ⅰ	中級Ⅱ	外国語実践演習Ⅰ
“KI” コース (既習者インテンシブ)	インテンシブ中級Ⅰ	インテンシブ中級Ⅱ	外国語実践演習Ⅰ
“KJ” コース (既習者上位レベル)	外国語実践演習Ⅰ	外国語実践演習Ⅱ	外国語実践演習ⅢA

イタリア語・朝鮮語・日本語選択者はコース選択ではなく、下記記載のとおりとなります。

【イタリア語・朝鮮語を外国語Ⅱとして履修する場合】

イタリア語・朝鮮語については、以下履修パターンに従い履修してください。

言語名	1年次 春学期	1年次 秋学期	2年次 春学期	2年次 秋学期
イタリア語	入門	初級	準中級	中級 (推奨)
朝鮮語	入門	初級	準中級	中級

【日本語を外国語Ⅱとして履修する場合】

日本語教育研究センター（CJL）開講「留学生対象日本語科目」の6単位以上取得が必須となります。履修方法についての詳細は以下URLをご確認ください。なお、CJL科目は自動登録されません。

（参考：日本語教育研究センターWebサイトURL：<https://www.waseda.jp/inst/cjl/>）

(3) 履修する上での各種連絡事項

◆履修順序について

初級・中級、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは難易度の順を示し、並行履修や逆行履修はできません。そのため、同一学期に「初級Ⅰ」と「初級Ⅱ」を並行して履修することはできません。

◆「外国語実践演習」について

各外国語の上級科目に相当する「外国語実践演習」は、その言語で1つのテーマについて深く学んでいく週1回の3単位科目です。「外国語実践演習ⅢA/B」については外国語Ⅱの必修単位を超える単位を取得する場合、演習の区分として計上することが可能です。

○「外国語実践演習ⅢA/B」の重複履修

「外国語実践演習ⅢA/B」は一度合格しても再度履修すること（重複履修）が可能です。ただし、卒業非算入科目として登録されます。また、審査は予め行いますが、最終的に2次登録後に余裕定員がある場合のみ、3次登録として申請を受理します。登録可否の発表は3次登録結果通知時となります。

手続き方法

2次登録期間終了までに以下のWEBページに掲載の申請手続きを行ってください。

政治経済学部WEBサイト>在学生の方へ>科目登録>外国語Ⅱ・副専攻(政経)・留学に伴う科目登録
>外国語Ⅱ科目の履修について

◆外国語地域副専攻について

外国語実践演習を含め、指定科目とあわせて20単位以上取得した場合、外国語地域副専攻修了証を得ることができます。所定要件など関連資料は、政治経済学部WEBサイトよりご確認ください。

在学生の方へ>科目登録>外国語Ⅱ・副専攻(政経)・留学に伴う科目登録>政治経済学部 副専攻について

◆卒業必要単位数修得後の履修について

せっかく身に着いたものを中途半端に終わらせるのではなく、是非最後まで究めてください！！

卒業必要単位を取り終えてからの語学履修を、政治経済学部語学教員は全力で後押しします。多くの皆さんが英語だけでなく、第二外国語も究めて世界に羽ばたいていくことを期待しています。

○必修単位数取得後の飛び級履修

外国語Ⅱの履修は原則としてレベルを順番に履修することとなっています。しかし、必修単位数取得後に2つ以上上のレベルの科目（例：中級Ⅰ→実践演習Ⅰ）を履修希望される場合は、担当教員との面談等を経て許可される場合があります。

手続き方法

2次登録期間終了までに以下のWEBページに掲載の申請手続きを行ってください。

政治経済学部WEBサイト>在学生の方へ>科目登録>外国語Ⅱ・副専攻(政経)・留学に伴う科目登録
>外国語Ⅱ科目の履修について

希望理由や履修状況を担当教員と確認します。登録可能な科目は2次登録後定員に余裕のある科目のみとなります。予め審査を行いますが、希望の科目クラスが2次登録で締め切られた場合、履修できない場合があります。初回授業から参加は可能ですが、登録可否の発表は3次登録結果通知時となります（自身での登録はできません）。

○インテンシブコース 必修単位修得後の履修の注意事項

“Ⅰ”コースの学生でインテンシブ中級Ⅰまで履修を終えた学生が、時間割の都合でインテンシブ中級Ⅱを履修できない場合、中級Ⅱを履修することができます。この場合、通常の科目登録同様Webから申請ください。ただし、言語およびクラスにより、中級Ⅱを履修してもインテンシブ中級Ⅰの修得レベルに達しないことがあります。各言語のレベルの対応表、シラバス、学科目配当表を確認し、慎重に検討してください。中級Ⅱに「上位レベルのクラス」が存在する場合は、そちらを履修してください。

◆第三外国語の履修について

さらに他の外国語を学習したくなったとき、あるいは勉強が必要となったとき、意欲に応じて「第3の外国語」として「入門科目」を履修することができます（2年生以上）。取得した単位は外国語科目部門に算入されますので、積極的に履修してください。ただし、外国語Ⅱとして選択した言語の「入門科目」は履修できません。

○第三外国語の飛び級履修

留学等で他の外国語に触れ、帰国後に「入門科目」を履修せずに、その言語の科目を履修したい場合は、担当教員との面談を経て許可される場合があります。

手続き方法

2次登録期間終了までに以下のWEBページに掲載の申請手続きを行ってください。

政治経済学部WEBサイト>在学生の方へ>科目登録>外国語Ⅱ・副専攻(政経)・留学に伴う科目登録
>外国語Ⅱ科目の履修について

希望理由や履修状況を担当教員と確認します。登録可能な科目は2次登録後定員に余裕のある科目のみとなります。予め審査を行います。希望の科目クラスが2次登録で締め切られた場合、履修できない場合があります。初回授業から参加は可能ですが、登録可否の発表は3次登録結果通知時となります（自身での登録はできません）。

◆再履修について

原則、語学科目は自動登録されますが、たとえばスタンダードコースの場合、春学期に「初級Ⅰ」が不合格となった場合は、秋学期の「初級Ⅱ」は取り消されます。「初級Ⅰ」の単位が取得できないときには、次学期以降に再度「初級Ⅰ」を自身にて科目登録（再履修）することになり、「初級Ⅱ」・「中級Ⅰ」の履修も先延ばしになります。

再履修の際に、他の必修科目と時間割が重なってしまった場合や年間の登録上限単位数をすでに超えている場合は履修がさらに延びますので、履修する言語・コースに関わらず、再履修することのないよう、1年次から2年次春学期にかけて、他の必修科目同様、語学の勉強に注力することが望めます。インテンシブコース（「I」コース・「KI」コース）科目を不合格となった場合、次学期からは「S」コース（「I」コース不合格者）、「K」コース（「KI」コース不合格者）で必要な科目を自身で科目登録し、履修します。この場合の外国語Ⅱの履修要件については、以下の表を確認してください。

<Iコース・KIコース不合格者の履修要件>

すでに合格した外国語Ⅱ科目の単位は、外国語Ⅱ（必修）として計上されたままとなり、それぞれ以下の科目を合格することで外国語Ⅱの卒業要件を満たします。

① インテンシブコース（Iコース）不合格者

不合格となった学期	合格しなければならない科目	必要単位数
1年春	初級Ⅰ/初級Ⅱ/中級Ⅰ	6単位
1年秋	インテンシブ初級Ⅰ（合格済）/ 初級Ⅱ/中級Ⅰ	8単位
2年春	インテンシブ初級Ⅰ（合格済）/ インテンシブ初級Ⅱ（合格済）/ 中級Ⅰ	10単位

② 既習者インテンシブコース（KIコース）不合格者

不合格となった学期	合格しなければならない科目	必要単位数
1年春	中級Ⅰ/中級Ⅱ/実践演習Ⅰ	7単位
1年秋	インテンシブ中級Ⅰ（合格済）/ 中級Ⅱ/実践演習Ⅰ	9単位

◆第二外国語の変更について

「外国語Ⅱ」として選んだ外国語は、1年春学期終了時あるいは1年秋学期終了時のみ、他の外国語に変更することができます(レベル変更は原則行いませんが、レベルに関する相談は各学期3次登録期間終了まで受け付けます。)。変更期間は、例年成績発表日に設定されています。詳細はMyWasedaのお知らせや政治経済学部WEBサイトをご確認ください。

政治経済学部WEBサイト>在学生の方へ>科目登録>外国語Ⅱ・副専攻(政経)・留学に伴う科目登録>外国語Ⅱ科目の履修について

他言語への変更条件については以下のとおりです。

- 1) 変更できる言語は日本語を除く全ての言語です。
- 2) 卒業するためには、変更後の外国語で必ず外国語Ⅱ部門の「必修」単位（6単位）を取得する必要があります。
- 3) 外国語教員による面接によって変更可否を決定します。
- 4) 変更後は、原則“S”コースのクラスのみ履修が可能です。
他言語への変更に際しては面接の上、変更可否を決めますが、担当教員の判断により、“K”コースや“KJ”コースでの履修もあり得ます。
- 5) 他言語からイタリア語・朝鮮語への変更は、履修順序の関係から、学年末の1回のみ可能です。
- 6) 学部の指定した日時（各学期成績発表日）に手続きを行なう必要があります。

※変更前に取得した外国語科目は、外国語Ⅱ（必修以外）に算入されます。

《参考：共通参照レベル（Common Reference Levels）*》

表1 共通参照レベル：全体的な尺度

ただし、中国語については下記表のとおりではない。

熟達した言語 使用者	C2	<u>聞いたり、読んだりしたほぼ全てのものを容易に理解することができる。</u> いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構成できる。自然に、流暢かつ正確に自己表現ができ、非常に複雑な状況でも細かい意味の違い、区別を表現できる。
	C1	<u>いろいろな種類の高度な内容のかなり長いテキストを理解することができ、含意を把握できる。</u> 言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。 社会的、学問的、職業上の目的に応じた、柔軟な、しかも効果的な言葉遣いができる。 複雑な話題について明確でしっかりとした構成の詳細なテキストを作ることができる。その際テキストを構成する字句や接続表現、結束表現の用法をマスターしていることがうかがえる。
自立した言語 使用者	B2	<u>自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑なテキストの主要な内容を理解することができる。</u> お互いに緊張しないで母語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然である。かなり広汎な範囲の話題について、明確で詳細なテキストを作ることができ、さまざまな選択肢について長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる。
	B1	<u>仕事、学校、娯楽で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。</u> その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。 身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈絡のあるテキストを作ることができる。経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べることができる。
基礎段階の言語 使用者	A2	<u>ごく基本的な個人的情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。</u> 簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。 自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。
	A1	<u>具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。</u> 自分や他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。 もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。

*出典：吉島茂、大橋理恵(他)(訳・編)『外国語教育Ⅱ ― 外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠 ― 』朝日出版社 2004年、25ページ

Part 2 各外国語の授業内容

1. 英語

国際語としての英語

今日、英語は国際語として広く世界中で使われています。国連等の国際機関で使用される公用語の一つに英語は必ず含まれていますし、報道、ビジネス等で英語が使われる頻度は傑出しています。医学、科学、文化等の研究においても、やはり英語が使われることが多いでしょう。また、インターネット等を用いた国際コミュニケーションの手段として、日常的に英語が用いられています。

英語圏の広さ、多様性

国際社会で生きていくために、上に書いたような「手段」としての英語の修得は不可欠です。しかし、言語を純粋に「手段」としてのみとらえることは、果たして可能でしょうか。言語はそれぞれの文化や歴史を担っています。それらを切り離して言語だけを習得しても本当の意味で「外国語」を習得したとは言いがたいのです。一口に英語といっても、アイルランド、アメリカ、英国、オーストラリア、カナダ、ニュージーランドといった地域の文化がそれぞれ異なっているように、そこで使用されている英語は実に多様です。広く多様性に富む英語圏の文化に触れ、理解を深めることで、文明社会における私たちの文化の位置を相対化し、客観的な視点を持つことも大切です。

「英語で議論する」を目標に

中学・高校で学んだ英語を基礎として、大学では、読み、書き、話し、聴くという4つのスキルをより高め、さらには「英語で議論する」力の修得を目標において欲しいと思います。「英語で議論する」と言うと、オーラルコミュニケーション（話し、聴く）のみが強調されていると思われるかも知れません。しかし、あらゆる言語能力は、その言語での読書量に確実に比例するとも言われています。英文での読書量を大いに増やし、英語圏の文化を広く深く身につけて欲しいものです。そして、書くという表現手段を通して、自らの見解を表明し議論を展開する方法を修得することも極めて大切です。

1年次の英語科目履修の流れは以下の通りとなります。

時期	行事	備考
3月	LANGX Speaking CASEC	LANGX Speaking/CASECのスコアを基にレベルごとにクラス分けが行われます。4ページ、13ページ参照。
3月下旬 ～4月中旬	科目登録 (自動登録)	「英語 Tutorial」「英語 Writing」「英語 Reading」は自動登録されます。
4月上旬	授業開始	登録が決定した科目の授業に参加してください。
7月下旬 ～8月上旬	春学期試験	
11月	CASEC	このスコアにより、2年次に履修する英語 Theme-Based Studies のコースが決定します。
1月下旬 ～2月上旬	秋学期試験	

(1) 英語 Tutorial・英語 Writing・英語 Readingの科目内容

ここでは、「英語 Tutorial」、「英語 Writing」と「英語 Reading」について説明し、「英語 Theme-Based Studies」の概要を説明する。「英語 Theme-Based Studies」に該当する各科目についてはWebシラバスを参照すること。また、「英語 Tutorial」のクラスは自動登録結果で通知される。

英語 Tutorial (Tutorial English A/B) : 春学期

「英語 Tutorial (Tutorial English A/B)」は政治経済学部とグローバルエデュケーションセンターが協力して実施する。

この科目の特徴は、チューター（講師）1人に対し学生が最大4人という、徹底した少人数教育を行う点にある。チューターは、英語力はもちろんのこと国際経験も豊富なネイティブスピーカーおよび日本人である。レッスンでは、チューターがグループのレベルや進度に合わせてテキストを用い、トピック等を設定する。また、各回のレッスン終了後、チューターからレッスンのフィードバックや英語力を身につけるためのアドバイスが送られ、履修者も英語で返信するなど、きめ細かな指導がなされる。

- ★「英語 Tutorial (Tutorial English A/B)」の再履修としては、秋学期に設けられる「英語 Tutorial (English Workout)」を受講するか、翌学期以降に「Tutorial English A/B/C/D」（グローバルエデュケーションセンター設置科目）を受講する（A～Dのいずれか2つを合格し、計2単位を取得する）。※再履修としての「Tutorial English A/B/C/D」には聴講料がかかるので注意すること。

英語 Writing (AWADE - Academic Writing and Discussion in English α/β) : 半期

Academic Writing and Discussion in English or AWADE α (alpha) and β (beta) are designed by interfaculty Waseda staff and completed within a single quarter, in classes of no more than 12 students. The α course focuses on the early stages of academic writing, including sentence and paragraph construction, the fundamentals of academic style, and small-scale essay composition. AWADE β (beta) is suited to those who already have some experience in writing academic English and intend to participate in a study-abroad program or English-medium class in Japan. It develops key writing skills such as paraphrasing and citing sources and includes discussion of contemporary topics, a short research paper, and an academic presentation.

英語 Reading (Language, Economics, and Politics) : 半期

This one-semester course, which is given at the intermediate, pre-advanced, and advanced levels, covers a variety of current and historical texts on significant topics in political science and economics. Activities will include individual and group assignments, both in class meetings and for homework. Some of these texts will have extended homework deadlines, but for others, students will be expected to read and comprehend in the classroom, with limited time and resources. While polishing skills needed for unsupported comprehension of complex texts is always a goal of reading courses, the program will also cover best practices for effective use of the many digital resources that we have in the modern world, including online machine translation and generative artificial intelligence.

Texts and activities are designed to hopefully prepare students for future academic and professional work. Accordingly, a major goal of the program is not only to introduce students to important texts in English, but also to give the skills and confidence to effectively engage with the full range of resources available when they approach any topic.

- ★「英語 Writing/Reading」科目は能力別クラス編成をとっている。入学者は3月中に実施されるオンライン試験のCASECの結果を基にレベルごとのクラスに自動登録される。必修科目との関係で自分の語学レベルと異なるクラスに登録される場合もある。自動登録後の変更は原則として認められない。
- ★「英語 Writing/Reading」科目の単位を取得できなかった場合には、2年次以降に同一科目を再履修する。

英語 Theme-Based Studies: English Language Courses : 半期

Those who score in the lower 70% of the second CASEC Test can select from these courses, which have a maximum of 30 students per class. Each meets twice a week for a total of 14 weeks (28 lessons in all) and focus on topics including Business English, Global Issues, News English, and Regional Studies.

英語 Theme-Based Studies: English Seminars : 半期

Students scoring in the top 30% of the CASEC Test can take these seminars, which have a maximum of 15 students per class and cover somewhat more specialized topics, with a special focus on writing. Classes meet only once a week for a total of 14 weeks (14 lessons in all) yet are worth the same number of credits (2).

The English-Based Degree Program Courses : 半期、クォーター、集中講義

Those students who score above [score] on the second CASEC Test are encouraged to take courses offered through the English-based Degree Program which offers a wide range of topics. However, it is important to note that these courses are open to those taking their degree course in English and therefore do not offer any special language assistance as part of the curriculum.

CASEC（オンライン試験）の受験必修について

1 年生は入学前の 3 月と入学後の 11 月頃に実施される CASEC の受験を必修としており、3 月に実施する CASEC の結果を基に、レベルごとの英語 Writing/Reading 科目が自動登録される。他に履修する科目やその他の事情によって各クラスの CASEC 設定基準は必ずしも一律ではないが、自動登録後の変更は原則として認められない。

11 月実施の CASEC では、その結果を基に 2 年次以降の必修である「英語 Theme-Based Studies」のレベル分けが行なわれ、取得スコアの上位 30% である A+ または A 取得者は週 1 回 2 単位科目である「English Seminars」を、B 以下取得者は週 2 回 2 単位科目である「English Language Courses」をそれぞれ履修することとなる。また、取得スコアの上位 15% 以内のスコアを取得した場合は、「英語 Theme-Based Studies」の履修を英語学位プログラム設置科目（一部科目を除く）の履修によって代替することが認められる。申請方法等詳細については、別途対象者に通知される。

【参考】

©CASEC (Computerized Assessment System for English Communication)

CASEC とは、より正しい測定を可能にする理論として海外では広く採用されている「項目応答理論 (IRT)」をいち早く採用したオンライン英語コミュニケーション能力判定テスト。

このテスト理論に基づき、解答の正解・不正解に合わせて問題の難易度が変わるコンピュータ適応型テスト (CAT) を実現し、短時間で受験者の英語力をより正確に測定できる。

TOEIC® や英検® と高い相関性をもつのも CASEC の大きな特長で、テストが終了するとその場ですぐに採点され、TOEIC® や英検® の目安となるスコアも併せて表示される。

2. ドイツ語

Guten Tag!

ドイツ語でヨーロッパの歴史・政治・経済・文化を学び、ドイツ語圏の人々と交流しませんか？

ドイツ語は主にドイツ、オーストリア、スイスの3カ国で使用されています。他にもリヒテンシュタイン、ルクセンブルク、フランスやイタリアの一部にもドイツ語を話す人々がいます。ドイツ語の母語話者は1億100万人ほど、世界にはドイツ語を外国語として学んでいる人がおよそ1,400万人いると推定されています。ドイツ語圏の中心ともいえるドイツ連邦共和国はEU（欧州連合）で最大の経済規模を擁しています。ヨーロッパの歴史、政治、経済、文化を深く知り、理解するためにドイツ語はとても役に立ちます。



「でもドイツって、英語が通じるんでしょ？」と思う人もいるかもしれません。観光地のレストランやカフェで注文するときには、確かに英語が通じます。しかし、それはあくまでも観光レベルの話です。ドイツ語圏のどこへ行っても、実際に話されているのはドイツ語です。ドイツ語を話すことができれば、ドイツ語圏の人々と深く話をすることができ、友達をつくって交流することができるようになります。



ドイツ語圏には、日本では知られていない魅力がまだまだたくさんあります。たとえば、ドイツのベルリン、ミュンヘン、オーストリアのウィーン、スイスのチューリヒなど、大都市であっても、街中のいたるところに森や湖など緑豊かな自然が残り、中世の時代から大切に受け継がれてきた美しい街並み、お城や教会、国立歌劇場といった歴史的建造物を目にすることができます。ドイツ語を学ぶことで、ドイツ語圏の歴史や文化、そして何よりも

激動する今日のヨーロッパの社会を、深く知ることができます。またドイツ語圏地域の人々との深い交流が可能になります。

政治経済学部ドイツ語では、毎年ドイツの学生との交流プログラムやオンライン・タンデムを実施しています。ドイツ語懇親会など、授業外での催しも行っており、早稲田大学で学ぶドイツ語圏からの留学生とも交流することができます。早稲田大学ではドイツ語圏への留学プログラムが大変充実していますので、2年次からの留学も可能です。みなさんもぜひ、政治経済学部でドイツ語を学び、さらにドイツ語圏・ヨーロッパの社会・文化を学び、ドイツ語圏の友達を作ってドイツ語で交流しませんか？





ドイツ語の履修パターン

- ドイツ語を初めて学ぶ場合：2つのコースがあります

(I) インテンシブコース

インテンシブ初級Ⅰから始めます。週4回ドイツ語を学び、ドイツの教材を用いてドイツ語を総合的に学習します。2年間で交換留学が可能なB1レベルに到達することを目標にします。留学を目指す人にお勧めのコースです。

(S) スタンダードコース

初級Ⅰから始めます。週2回授業があり、話す、聞く、読む、書く、の4技能を全クラス共通の教科書を用いて総合的に学習します。2年間でA2レベルに到達することを目標にします。

- ドイツ語を高校などですでに学んだことのある場合：K、KI、KJの3コースがあります

(KI) 既習者インテンシブコース

高校などですでにドイツ語を学習し、A1レベル相当のドイツ語力を持つ人を対象としています。ドイツ語授業はインテンシブ中級Ⅰから始め、インテンシブ中級Ⅱ、独語実践演習Ⅰを必修として履修します。インテンシブ中級Ⅰ・中級Ⅱでは、週4回ドイツ語を学習します。留学を目指す人にお勧めのコースです。

(K) 既習者コース

高校などですでにドイツ語を学習し、A1レベル相当のドイツ語力を持つ人を対象としています。ドイツ語授業は中級Ⅰから始めます。週2回、ドイツの教材を用いて学習します。2年間で、交換留学レベルに到達できます。

(KJ) 既習者コース（上位レベル）

ドイツ語圏への留学や長期滞在の経験があり、B1レベル相当のドイツ語力を持つ人を対象とします。ドイツ語授業は独語実践演習Ⅰ、独語実践演習Ⅱ、独語実践演習ⅢAを順番に履修し、計9単位を取得。ドイツの教材を用いて勉強します。2年次秋からの交換留学が可能です。

独語入門

ドイツ語を第三外国語として学びたい学生が対象です。「独語（初級）Ⅰ入門」を履修します。週2回、1冊の教科書を用いて授業を進めます。話す、聞く、読む、書く、の4技能を総合的に学習します。A1レベルに到達することが目標です。

政治経済学部「ドイツ語圏地域副専攻」

政治経済学部では、複数の言語を使うことのできる複言語能力を高めることを目的とした「外国語地域副専攻」の制度を2019年度から開設しています。ドイツ語では、ドイツ語を使ってドイツ語圏地域の政治や経済について専門的に学べる「ドイツ語圏地域副専攻」を提供しています。この副専攻の指定科目でもある「独語実践演習」では、ドイツ語圏地域の社会についてドイツ語でテキストを読み、ドイツ語を用いて発表し討論することで、ドイツ語の総合的なアカデミックコミュニケーションの能力を高めることができます。並行してドイツ語圏に関連する上記演習科目や講義科目「外国文学（O2）」、「地域文化研究（中欧）O1」を履修することにより、ドイツ語圏地域の文学ならびに文化全般に関して知識を深めることができます。ドイツ語圏への留学準備や留学後のフォローアップにもおおいに役立つことでしょう。既習者（上位）コース（KJコース）の新入生は「独語実践演習Ⅰ」からドイツ語を履修しますが、その他のコースの新入生は、ドイツ語科目をインテンシブ中級Ⅱまたは中級Ⅱまで履修した後に「独語実践演習」の履修が可能となります。2年次秋学期以降もドイツ語学習を継続し、ぜひとも「ドイツ語圏地域副専攻」の修了を目指してください！

詳細は政治経済学部 HP

<https://www.waseda.jp/fpse/pse/students/enrollment/>に掲載されている「副専攻について」を参照してください。



「独語実践演習」（Ⅰ, Ⅱ, ⅢA, ⅢB）

ドイツ語を用いてドイツ語圏・ヨーロッパの政治経済に関する専門知識を学ぶことができます。学生は、演習のテーマの枠の中で自ら問題を設定し、必要な文献や各種資料を集めて読み、プレゼンテーションを作り上げ、それを授業の場で発表し、発表内容を基にドイツ語でディスカッションを行い、ドイツ語でレポートを執筆します。ディスカッションや発表はすべてドイツ語を用いて行います。ドイツ語圏からの留学生のTAがドイツ語のサポートを行います。留学生のTAからは学生と同じ目線から見たドイツ語圏の最新情報についても得ることができるでしょう。

アカデミックリテラシー演習

ドイツ語のニュースを聞いて、それについて話す「アカデミックリテラシー演習（ドイツ語で学ぶ現代ヨーロッパ）」[春学期]、ドイツの国際放送Deutsche Welleのゆっくり発音のニュースを聞き、読む「アカデミックリテラシー演習（ドイツ語で聞いて読むニュース）」[秋学期]、ドイツ語と英語の2言語を使って学ぶ「アカデミックリテラシー演習（複言語で学ぶ社会文化）」[秋学期]が開講されます。

GEC（グローバルエデュケーションセンター）のドイツ語開講科目

GECにも様々なドイツ語授業が開講されています。また、全学副専攻「ドイツ研究」が設置されています。政治経済学部の授業とともにぜひ履修してください。

- ドイツ語コミュニケーション（基礎）（続基礎）（応用）（上級）：
レベル別の少人数グループに分かれ、ドイツ語チューターによる会話レッスンを行います。
- ドイツ語テレビ会議：上級者向け科目。ドイツの大学とネット中継を結び、討論します。
- 全学副専攻「ドイツ研究」のサイト：<http://www.ds-wu.jp/moodle>
- GEC全学副専攻の説明：<https://www.waseda.jp/inst/gec/undergraduate/minor-2/>

ドイツ語の教室外での催し

5月：ドイツ語クラス懇親会

ドイツのレシピを使って、ドイツ風ポテトサラダ(ドイツ語でKartoffelsalat)を皆で一緒に作ります。このため、この懇親会は通称「ポテトサラダパーティー」と呼ばれています。じゃがいもは、皮ごとゆでて、熱いうちに皮をむくのがポイント！このほか、ドイツ風の美味しいパンや名物白ソーセージも用意されています。留学生も遊びに来てくれますので、少しずつドイツ語を使って、話してみましょう。留学生たちは日本語を学んでいるので、日本語を使っても大丈夫です。この他に、ドイツ語圏に留学していた先輩たちの体験談を聞くこともできます。



7月：ドイツ企業を知る

このイベントには複数の大学の学生が参加します。学生の希望に沿うようにドイツ企業とのマッチングを行い、企業から出された研究課題について話し合い、プレゼンテーションを行います。プレゼンテーションは英語ですが、準備の過程でドイツ企業の人たちとドイツ語でコミュニケーションを取ることができます。

6月・11月：ドイツ・ライプチヒ大学日本学科学生とのオンライン・タンデム

コロナ禍に対面での交流が行えなかったために始まったオンラインの企画です。毎回多くの学生が参加し、ドイツ語と日本語で、少人数グループに分かれて決められたテーマに沿って話をしています。

11月：ドイツ語スピーチコンテスト

このスピーチコンテストには、ドイツ語のスピーチだけでなく詩の暗誦、団体という種目があり、ドイツ語を始めたばかりの1年生でも出場できます。ドイツ語の詩の暗誦は、ドイツ語を読むという練習を通して発音が上手にできるようになります。団体の部では、毎年、クラスの学生たちが楽しい企画を発表しています。スピーチの部も1年生から出場可能です。出場者はドイツ語圏出身の留学生と練習することができます。コンテストの後は、授賞式を兼ねた懇親会が開催され、ドイツ風パンやソーセージが用意されます。ドイツ語圏からの留学生や政経の卒業生も遊びに来てくれます。みなさんもぜひこの楽しい催しに参加しませんか？



2月：ドイツ・ライプチヒ大学との交流プログラム

ドイツ・ライプチヒ大学を訪問し、日本学科の学生たちと交流するプログラムです。日本学科の学生たちの家にホームステイを行うこともできます。大学から渡航費・宿泊費の補助が出ます。現地集合・現地解散のプログラムですので、この機会にぜひ、一緒にドイツへ行ってドイツ語を使って交流しましょう！



欧州共通参照レベルに基づいたドイツ語科目の到達目標

欧州共通参照 レベル (CEF)		初級		中級		中級 上位		独語実践演習				インテンシブ 初級		インテンシブ 中級	
		I	II	I	II	I	II	I	II	ⅢA	ⅢB	I	II	I	II
A1	初級 1-1	①										⑪			
	初級 1-2		②										⑫		
A2	中級 1-1			③										⑬	
	中級 1-2				④	⑤									⑭
B1	中級 2-1						⑥								
	中級 2-2							⑦							
B2	上級 1-1							⑧							
	上級 1-2								⑨						
B2 ↓ C1	上級 2-1									⑩					
	上級 2-2														

枠組みの意味：単位を取得した場合、枠内の下位レベルまでの能力獲得が可能。

優秀な成績で単位を取得した場合、枠内の上位レベルまでの能力獲得が可能。

- ① ～ ④ “S” コース履修推奨モデル（意欲に応じて独語実践演習科目の履修も推奨）
- ⑤ ～ ⑧ “K” コース履修推奨モデル
- ⑦ ～ ⑩ “KJ” コース履修推奨モデル
- ⑪ ～ ⑭ “I” コース履修推奨モデル
- ⑬⑭～⑦⑧ “KI” コース履修推奨モデル

※上記推奨モデルはあくまでも「推奨」であり、卒業必要単位数修得後の履修も含まれています。

3. フランス語

外国語としてのフランス語

フランスは美食とファッション、芸術のパリと陽光あふれるコート・ダジュールの国と思われるかもしれませんが。しかしパリは都市改造と万国博覧会、革命も何度も経験したバリケードとデモとストライキの町です。国民国家のモデルを世界に提示したフランスは、制定された憲法だけでも15を数え、統治形態としておおよそ考えうるほとんどの実験と試練を経ています。それだけ失敗も多かったということですが、フランスは何よりも言葉による戦いの歴史を積み重ねた国なのです。

フランス語の今ある姿は、王権による国家統一とともに実現しました。現代のフランス語を学べば、ルネッサンス期の文章まではあまり無理なく読むことができます。俗語の洗練にギリシャ・ラテンからの語彙を加え、多様かつ豊穡になった段階で語法を論理的に整理して純化されたこの言語は、さながら幾何学的に刈り込まれたフランス庭園のようです。よきフランス語文は直線的に見通しがよくきき、方程式を扱うように文章が組み立てられる、と言った人もいます。しかしこの言語は19世紀半ば以降、文学をとおして「自然」にも開かれたものとなりました。詩や小説が啓蒙の光がつくりだす闇をとらえるのに成功すると、絵画や音楽の世界でも印象派や象徴派が誕生します。それもフランス語の世界であることに変わりはありません。

近代の学問はほとんどが西欧からもたらされました。しかし移植された社会的な価値や概念は、しばしば温室育ちで雨風には弱かったかもしれません。それに対して、そうした概念を現実の社会関係から作り出ししてきた土地では、それらは日常言語のなかに根を張り、いわば自生しています。自生しているから絶えず実践のなかで検証され、変化を遂げてゆきます。

啓蒙時代に世に問われた概念は、まずはフランスで、そしてヨーロッパ全土で具体的に展開され、歴史の試練にあいました。そうした試練に日本も参加するようになって、まだ百数十年しかたっておらず、このプロセスはなお終わっていません。だから学問の世界での常識にとらわれていると、それを生み出した土地ではそうした常識はすでに過去のものになっている、といったことも起こります。言語は生きている、というのはそういうことを指しています。

「古いヨーロッパ」と言いながら、英語圏の人たちがいまも「ヨーロッパ」の過去と現在を研究しているのはそのためです。その二番煎じに甘んじたくなければ、私たちもじかに対象に当たる必要があります。フランス語はそのような要請に応えられる有力な言語の一つです。

このようにフランス語は、フランスの歴史や文化と一体のもですが、同時に世界中で多くの人がコミュニケーションの道具として、また世界を見るための窓として積極的に利用している「外国語」です。外交の言語としての長い歴史から、国際機関では英語と並ぶ地位が与えられています。フランスには世界の各地に対する地域研究の長い蓄積があり、地政学的な分析はお家芸であるとも言えます。もちろんそれはフランスからの見方であり、相対化されるべきものです。フランス人が東アジアをしっかりと読んでいるのに、日本人がヨーロッパを十分読めていないとすればどうなるでしょうか。

最後に、フランス語はおしゃべりにも向いています。カフェのテラスがにぎやかなのはそのためです。フランス語を用いる人たちはフランコフォーン、その共同体はフランコフォニーと呼ばれます。ヨーロッパのフランスに隣接する地域や、カナダ、アフリカといったフランス語話者の密度の高い地域で暮らす人たちがばかりでなく、外国語としてフランス語を学び、使えるようになった人もフランコフォーンです。あなたもその仲間に入りませんか。

フランス語科目の履修方法

フランス語科目の履修方法については、このガイドのPart 1の「3.「外国語Ⅱ」の履修規則 ― 英語以外の外国語を効果的に学ぶために」をよく読んでください。ただし次の諸点に注意してください。

- フランス語を初めて学ぶ人は、スタンダード（S）コース、インテンシブ（I）コースのいずれかを選ぶこと。3年次以降は「仏語実践演習」を学ぶことができます。
- 入学試験をフランス語で受験した人、また「バカロレア」を取得している人は、既習者上位レベル（KJ）コースを選ぶこと。
- 中学や高校ですでにフランス語を学んでいる人は、既習者（K）コース、既習者インテンシブ（KI）コースのいずれかを選ぶこと。希望申請（巻末参照）をすることで、既習者上位レベル（KJ）コースの選択が許可される場合もあります。2年次以降は「仏語実践演習」を学ぶことができます。

フランス語科目の内容

初級Ⅰ・初級Ⅱ

いずれも（S）コース1年次のための科目です。春学期が初級Ⅰ、秋学期が初級Ⅱ、それぞれ週2コマで構成されます。半年遅れのクラスも用意しています。

週2コマのうち1コマでは文法を学び（日本人教員が担当）、もう1コマではフランスで出版されている教材を用いて、単文レベルのフランス語と日常的なフランス語の表現の練習をします（フランス人教員が担当）。

インテンシブ初級Ⅰ・初級Ⅱ

いずれも（I）コース1年次のための科目です。春学期がインテンシブ初級Ⅰ、秋学期がインテンシブ初級Ⅱです。それぞれ週4コマで構成されます。

フランス語をインテンシブ（集中的）に学習します。週4コマのうち2コマは、文法の学習と文章の読解（日本人教員が担当）、あと2コマは、フランスで出版されている教材を用いて実践練習（会話、ヒアリング、ディクテ、発音練習など）を行います（フランス人教員が担当）。

中級Ⅰ・中級Ⅱ

春学期が中級Ⅰ、秋学期が中級Ⅱです。いずれも週2コマで構成されます。半年遅れのクラスも用意されています。

（S）コースでは2年次配当で、中級Ⅰは必修です。週2コマのうち1コマでは、文法を初級から継続して学ぶとともに、比較的やさしい読み物を読みます（日本人教員が担当）。もう1コマでは、フランスで出版されている教材を用いて実践練習（会話、ヒアリング、ディクテ、発音練習など）を行います（フランス人教員が担当）。中級Ⅱ（秋学期）は必修ではありませんが、外国語Ⅱ（必修以外）科目として学ぶことができます。中級Ⅰの延長として、多様なテキストの読み方を学び、文法知識の確認、内容に対応した応答練習も行います。

（K）コースでは1年次配当で、週2コマのうち1コマでは、テキストの読解を中心に語彙や語法に関する知識を深め（日本人教員が担当）、もう1コマでは、状況に対応した幅広いコミュニケーション能力を養成します（フランス人教員が担当）。

インテンシブ中級Ⅰ・中級Ⅱ

春学期がインテンシブ中級Ⅰ、秋学期がインテンシブ中級Ⅱです。いずれも中級フランス語を週4コマ学びます。4コマのうち2コマは、読解力の養成を主眼とする授業となり、評論、小説、新聞など、異なるタイプのテキストに出会うことで使える語彙や語法を拡充し、和訳練習や文章構成の吟味を行います（日本人教員が担当）。あとの2コマでは、フランス語の実践とコミュニケーション能力の深化をめざします（フランス人教員が担当）。インテンシブ中級Ⅱでは、インテンシブ中級Ⅰの内容を継続しながら学習を深めます。

（I）コースでは2年次配当で、Ⅱは必修ではありませんが、外国語Ⅱ（必修以外）科目として学ぶことができます。

（KI）コースでは1年次配当。Ⅰ・Ⅱとも必修です。

仏語実践演習Ⅰ・仏語実践演習Ⅱ

仏語実践演習Ⅰ（春学期）、仏語実践演習Ⅱ（秋学期）ともに、週1コマで構成されます。

テキストの読解、映像・音声情報の的確な把握とその文字化、国際関係から日常生活まで様々な領域での意見交換など、多様なアプローチをとおしてフランス語の実践的な運用能力を身に付けます。内容に関してはクラスごとに異なりますので、それぞれのシラバスを参照してください。日本人教員が担当する場合には原則としてフランス人TAが授業に参加し、作文の添削なども行います。

（KJ）コースは1年次配当でⅠ・Ⅱとも必修です。

（K）コースおよび（KI）コースは2年次配当で、Ⅰは必修。Ⅱは必修ではありませんが、外国語Ⅱ（必修以外）科目として学ぶことができます。

（S）コースおよび（I）コースは、3年次以降（詳細はP.7参照）に外国語Ⅱ（必修以外）科目として学ぶことができます。

仏語実践演習ⅢA・仏語実践演習ⅢB

仏語実践演習ⅢA（春学期）、仏語実践演習ⅢB（秋学期）ともに、週1コマで構成されます。

フランスのジャーナリズム（新聞、雑誌、テレビニュース）、文化（文学、絵画、映画、建築）あるいは気候・風土・歴史に関して、教員が選んだテキストや映像を理解し、自らの意見をフランス語で述べられるようになることを目指します。

（KJ）コースは2年次配当。仏語実践演習ⅢAは必修です。

（I）コース、（K）コース、（KI）コースの履修者は、3年次以降（詳細はP.7参照）に選択可能です。

（S）コースの履修者は、3年次の仏語実践演習Ⅰ、仏語実践演習Ⅱを経て、4年次に選択可能です。

仏語（初級）Ⅰ 入門

第3外国語としてフランス語を初めて学ぶためのクラスです。週2コマで秋学期のみ設置されます。1コマでは文法の初歩を学び（日本人教員が担当）、もう1コマでは発音や日常表現を学びます（フランス人教員が担当）。2年次以降に配当されます。

その他

政治経済学部では、フランス語のテキストを読む**アカデミックリテラシー演習**、フランス文学やフランス映画を対象とする**学際領域演習**、**外国文学（O2）**、**地域文化研究（フランス）**、**現代思想**などの講義科目、**政治学フランス語文献研究A・B**（大学院先取り科目として）などを履修することで、フランス語およびフランス文化への理解を深めることができます。また**副専攻制度**のなかに「**外国語地域副専攻（フランス語圏）**」がありますから、政経学部WEBサイト（科目登録）で確認のうえ活用してください。さらにGEC（グローバルエデュケーションセンター）設置科目や全学オープン科目もあります。

欧州共通参照 レベル（CEF）		初級		中級		仏語実践演習				インテンシブ 初級		インテンシブ 中級	
		I	II	I	II	I	II	ⅢA	ⅢB	I	II	I	II
A1	初級1－1	①								⑨			
	初級1－2		②										
A2	中級1－1			③							⑩		
	中級1－2				④							⑪	
B1	中級2－1					⑤							⑫
	中級2－2						⑥						
B2	上級1－1							⑦					
	上級1－2								⑧				

枠組みの意味：単位を取得した場合、枠内の下位レベルまでの能力獲得が可能。

優秀な成績で単位を取得した場合、枠内の上位レベルまでの能力獲得が可能。

- ・① ～ ④ “S” コース履修推奨モデル（意欲に応じて仏語実践演習科目の履修も推奨）
- ・③ ～ ⑥ “K” コース履修推奨モデル
- ・⑤ ～ ⑧ “KJ” コース履修推奨モデル
- ・⑨ ～ ⑫ “I” コース履修推奨モデル
- ・⑪⑫～⑤⑥ “KI” コース履修推奨モデル

※上記推奨モデルはあくまでも「推奨」であり、卒業必要単位数修得後の履修も含まれています。

4. ロシア語

グローバルな言語、豊かな文化への窓、隣国の言葉 — ロシア語を通じて広い世界へ！

グローバルな言語

＊ロシア語は、母語話者の数だけでもヨーロッパ最大であり、ロシア国内だけで1億4千万人以上が使用している言語です。それだけではなく、旧ソ連諸国をはじめ、東欧、イスラエル、ドイツ、アメリカなどにおいて、世界中に2億数千万人ほどのロシア語話者がいます。つまり、ロシア語はロシアだけの言葉ではなく、実は**グローバルな言語**です。

＊さらに、ロシア語は国際連合やUNESCO、世界保健機関（WHO）や国際原子力機構などの国際機関の公用語となっており、国際宇宙ステーションでも使われています。そもそも、人間が宇宙で初めて発信した言葉はロシア語でした。そう、ロシア語は地球だけではなく、**宇宙の言葉**でもあるのです。



ロシア語話者配布図
(ウィキペディアより)

豊かな文化への窓

＊ドストエフスキーやトルストイをはじめ、世界文学の発展に貢献したロシア系の作家・詩人がたくさんいます。ロシアは宇宙工学も有名で、ロシア語は**宇宙飛行士**にとって必須の語学です。また、フィギュアスケートなどの大会での活躍に見られるように、各種**スポーツ**も盛んです。近年、ソチで冬季オリンピック、モスクワなどでサッカーワールドカップのようなビッグイベントが開催されました。世界中、**音楽**や**バレエ**などの**芸術**の分野、**理系科学**などにおいてロシア語圏出身者はとても多く、**インターネット**上でもロシア語の活用度は極めて高いと言えます。また、ロシアは昔から**多民族・多宗教**国家であり、今でも移民がとても多いです。このように、ロシア語圏は**東西文化の交差点**のような存在であり、バラエティに富む様々な**文化の宝庫**でもあります。

＊ちなみに、ロシア語の形態は19世紀の作家たちの時代からあまり変わっていないので、基本の文法を学べば、ある程度ドストエフスキーやチェーホフなどの作品を読むことができます。また、ウクライナ語、ポーランド語、ブルガリア語など、同じ**スラヴ語群**で**ロシア語と共通点の多い言葉**も学びやすくなり、新しい世界が広がることでしょう。いろいろ楽しいこと、ロシア語と一緒に体験してみませんか？

隣国の言葉

＊ロシアは日本海を挟んで日本と隣国であり、日本に**一番近いヨーロッパ**です。地理的には、例えば神戸や広島にとっては札幌よりウラジオストクの方が近く、北海道にとっては東京よりサハリンの方が近いのです。東京にとっても、沖縄よりロシア沿海州地方の方が近く、ウラジオストクとハバロフスクまで直行便でしたらたった2時間ほどで飛べます。地理的にはすごく近いのに、ほぼ未知の世界であり、ワクワクします！

＊日露関係は17世紀に遡り、文化や文学などの分野において**昔から活発な交流**が行われてきました。現在も様々な日本企業がロシア語圏に進出しています。ロシアはAPEC加盟国であり、アジア・太平洋経済圏への関わりを深めています。また、**資源大国**のロシアは、特に**エネルギー安全保障**の見地から、日本にとって**重要な供給元**です。早稲田大学は昔からロシアと繋がりがあり、東京にはロシア正教会や、ロシアに縁のある場所も少なくないのです。逆にロシアでも**日本文化が大人気**で寿司やアニメ、村上春樹の小説や北野武の映画が大人気。遠いようで実は近くもある、それが日本から見たロシアかもしれません。



マトリョーシカ人形

＊日本語には、イクラ、インテリ、ノルマなど、**ロシア語起源の言葉**もあり、**Д、Э、Ж、Ш、Ф**などのキリル文字はメール等で顔文字にも使われています。北海道や新潟では、ロシア語の標識を見ることができます。ロシア語にも「遠くの親戚より近くの隣人」という諺があります。是非とも**隣国ロシア**の言葉を勉強し、多様化していく広い世界を開きませんか？ \ (・д・;)

豊富な言語の魅力

そもそも、ロシア語ってどんなお言葉？本当に「難しい」かしら？

＊ロシア語は、インド・ヨーロッパ語族スラヴ語派に属し、独特のキリル文字を用います。ロシア語は、名詞・形容詞には男性・女性・中性および単数・複数の違いがあり、それぞれ、文章内における役割の違いにしたがって、語尾が多様な変化をします。動詞もまた、それぞれの意味に対して完了体と不完了体の二つの形があり、さらに、移動の動詞という特殊な動詞群もあります。これらの動詞は、接頭辞・接尾辞などが付されることで、多面的なニュアンスを表します。そのため、ロシア語には複雑な言語というイメージがあるのは確かです。

ロシア語のキーボード配列 テクノウエ http://www.russian.jp



多言語サポートの設定で普通のパソコンでもロシア文字の入力は可能です。

＊しかしながら、これらを難点としてのみ見るのではなく、別の側面から見ることもできます。ロシア語では、単語それぞれの**独立性が高く**、個々の単語にたっぷりの情報が入っているのです。例えば、たった一つの単語「шла」だけで、日本語では「（一人の女性がどこか一方方向に歩いて）移動していた」という意味がすべて含まれます。また、このように**一語の情報量が多い**ため、英語ほど厳しい語順の制限もなく、強調したいニュアンスにより、文章内の語順を変化させ、モザイク画のように多様に描写することが可能です。したがって、上記の「難点」はロシア語の「魅力」「豊かさ」でもあるのです。

＊なにより、ロシア語を含む全ての言語は、人間が作り出した、論理的な記号・システムです。つまり、人間である限り、誰でも勉強できます！「○人だから向いていない」とか、「母語とは異なるのでできない」ということは一切ありません。いくら難しくても、規則・ルールさえ抑えれば、誰でも修得し、活用できます。しかも、ロシア語という、これだけ豊富な言語の学習は、**最高の知的冒険**にもなります。ローマ字とは異なるキリル文字を書いたり読んだりするだけでも、友達に感心されるでしょう。

ロシア語@早稲田

＊日本におけるロシア語教育の歴史では早稲田大学が特別な位置を占めています。今でも、昔からの伝統を受け継ぎながら、その最前線に立っています。現在、早稲田大学は、モスクワ大学、サンクトペテルブルク大学、ウラジオストクの極東連邦大学などと交換留学の大学間協定を結んでおり、キャンパスで同世代のロシア語話者と会ったり、交流したりする機会があります（2022年度にはウクライナ避難民のためのイベントもありました）。休暇期間中にさまざまな学習プログラムもあり、2023年と2024年にカザフスタンとウズベキスタンで「中央アジア・ロシア語研修」を実施しました。ロシア語を使って、伝説のシルクロードを体験してみたいはいかがでしょうか？



「中央アジア・ロシア語研修」
2023年9月

＊これらの制度を使って、政治経済学部を含む全学の学生たちが、一年間の長期留学から短期研修まで、バラエティに富むロシア語圏を体験してきました。また、オンラインでロシア人の学生たちと交流の機会を設けたり、遠隔研修プログラムを斡旋したりしますので、きっとお気に入りの交流モデルがあるでしょう。

＊ロシア語は大学に入ってから初めて習う方が多いですが、入学時までに全くロシア語の勉強の経験がなくても、短期研修または長期留学が可能なレベルにまで到達することができます。様々な国々出身のネイティブを含む先生たちは一生懸命にサポートしますので、是非とも一緒にこの新しい世界を旅しましょう！

(1)ロシア語科目の履修方法

政治経済学部におけるロシア語学習は、下記グラフに示された科目と到達目標に基づいて、(1) Sコース、(2) Iコース、(3) Kコース、(4) KIコース、(5) KJコースの5つのパターンで行なわれます。

(1) S（スタンダード）コース

はじめてロシア語を学習する者（未習者）を対象として、基礎的な文法的知識を吸収しつつ、ロシア語の四技能（聞く、話す、読む、書く）を着実に身につけたい学生向けのコースです。教科書はネイティブによる音声と単語帳、巻末に文法の変化表もありますので、繰り返し何度でも使えます。これらを積極的に活用し、先生と連携しながら、さまざまなシチュエーションを考えて、ロシア語にすっかりと慣れます。グラフで示されているように、必修科目である初級Ⅰ、初級Ⅱ、中級Ⅰを、初歩から順を追って、週に2コ

マで学習を積み重ねていきます。中級Ⅰを修了した時点で、A2レベル、つまり自分や家族などについて、よく使われる文や表現が理解できるところまでいくことを目標としています。さらに、継続こそが語学力UPの王道ですので、続けてグラフ④の選択科目の中級Ⅱをとると、さまざまなテーマの教材を使いながら、B1レベルに達することができます。これは現地長期留学が可能なレベルです（一部の短期研修・留学プログラムは初級Ⅰを修了した時点で参加可能です）。

この履修方法では、必修科目としてロシア語科目を3科目(6単位)履修します。授業時間は週に2コマです。第2年次の中級Ⅱは選択科目です。

外国語Ⅱ	
第1年次	初級Ⅰ、初級Ⅱ
第2年次	中級Ⅰ、中級Ⅱ（推奨）

（2）Ⅰ（インテンシブ）コース

未習の外国語を、集中して勉強しようと考えている学生向けのコースです。初歩からはじめて、基礎的な文法的知識を習得し、ロシア語の四技能（聞く、話す、読む、書く）をより深く学び、総合的に伸ばしていきます。ネイティブ教員による授業もあり、文法をひとつとおり勉強したところで、映画やアニメなどを教材に、ロシア語を楽しみましょう。検定の上級やチャーホフの作品にもチャレンジ？

グラフ⑨⑩⑪が示しているように、このコースではインテンシブ初級Ⅰ、インテンシブ初級Ⅱ、インテンシブ中級Ⅰとして、週に4コマ、集中してロシア語を学習します。2年間でB2レベルまで行くことをめざしています。これは「自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑なテキストが理解できる」レベルです。このコースは特に留学を目指す方にはお勧めです。

この履修方法では、必修科目としてロシア語科目を3科目(12単位)履修します。授業時間は週に4コマです。第2年次のインテンシブ中級Ⅱは選択科目です。

外国語Ⅱ	
第1年次	インテンシブ初級Ⅰ インテンシブ初級Ⅱ
第2年次	インテンシブ中級Ⅰ インテンシブ中級Ⅱ（推奨）

（3）K（既習者）コース

グラフ③④⑤に示されたKコースは、高等学校などですでにロシア語を学んだことのある者、ロシアなどからの帰国生を対象としていて、必修科目である中級Ⅰ、中級Ⅱ、露語実践演習Ⅰ、さらにグラフ⑥の選択科目の露語実践演習Ⅱを履修することによって、2年間でB2レベルまで行くことを目標とします。文法やあらゆる表現をブラッシュアップして、ロシア語の感覚を磨きましょう。

この履修方法では、必修科目としてロシア語科目を3科目(7単位)履修します。中級科目授業時間は週に2コマで2単位、露語実践演習科目は週1コマで3単位です。第2年次の露語実践演習Ⅱは選択科目です。

外国語Ⅱ	
第1年次	中級Ⅰ 中級Ⅱ
第2年次	露語実践演習Ⅰ、露語実践演習Ⅱ（推奨）

（4）KI（既習者インテンシブ）コース

既習者のなかで、さらに集中してロシア語の学力を伸ばしたいと希望する学生のためのコースです。第1年次では、インテンシブ中級Ⅰ、インテンシブ中級Ⅱとして週4コマ履修し（各4単位）、第2年次で露語実践演習Ⅰ、露語実践演習Ⅱ（推奨）として週1コマを履修します（各3単位）。2年間で、ロシア語を使って専門職に就ける実力を身に着けることを目標としています。長期留学、さまざまなリサーチにおいてロシア語を活用したい方にお勧めです。

この履修方法では、必修科目としてロシア語科目を3科目(11単位)履修します。授業時間は第1年次の中級科目で週4コマ、第2年次の露語実践演習で週1コマです。第2年次の露語実践演習Ⅱは選択科目です。

外国語Ⅱ	
第1年次	インテンシブ中級Ⅰ インテンシブ中級Ⅱ
第2年次	露語実践演習Ⅰ、露語実践演習Ⅱ（推奨）

(5) KJ（既習者上位）コース

既習者のなかで、高度なロシア語能力を持つ学生のためのコースです。第1年次では、露語実践演習Ⅰ、露語実践演習Ⅱとして週1コマ履修し（各3単位）、第2年次で露語実践演習ⅢA、露語実践演習ⅢB（推奨）として週1コマ履修します（各3単位）。2年間で、より高度なロシア語を身に着けることを目標としています。日常生活から政治や歴史、国際関係のようなテーマまで議論できる、ロシア語の実践的な運用能力を目指す方にお勧めです。

この履修方法では、必修科目としてロシア語科目を3科目（9単位）履修します。授業時間は週1コマです。第2年次の露語実践演習ⅢBは選択科目です。

外国語Ⅱ	
第1年次	露語実践演習Ⅰ、露語実践演習Ⅱ
第2年次	露語実践演習ⅢA、露語実践演習ⅢB（推奨）

(6) 露語（初級）Ⅰ 入門（2年生以上）

第3外国語としてロシア語を学習したいという学生のためのコースです。半期の短期間ですが、週2回、初級から中級にかけての文法、語彙、実用的な表現を速習することを目指しています。具体的には、新聞の見出し程度が分かり、旅行時の、あるいはSNSを通しての簡単なコミュニケーションが成り立つようなレベル達成に向けて、授業を組み立てています。

欧州共通参照 レベル（CEF）		初級		中級		露語実践演習				インテンシブ 初級		インテンシブ 中級	
		I	II	I	II	I	II	ⅢA	ⅢB	I	II	I	II
A1	初級1－1	①								⑨			
	初級1－2		②								⑩		
A2	中級1－1			③								⑪	
	中級1－2				④								⑫
B1	中級2－1					⑤							
	中級2－2						⑥						
B2	上級1－1							⑦					
	上級1－2								⑧				

枠組みの意味：単位を取得した場合、枠内の下位レベルまでの能力獲得が可能。

優秀な成績で単位を取得した場合、枠内の上位レベルまでの能力獲得が可能。

- ・① ～ ④ “S” コース履修推奨モデル（意欲に応じて露語実践演習科目の履修も推奨）
- ・③ ～ ⑥ “K” コース履修推奨モデル
- ・⑤ ～ ⑧ “KJ” コース履修推奨モデル
- ・⑨ ～ ⑫ “I” コース履修推奨モデル
- ・⑪⑫～⑤⑥ “KI” コース履修推奨モデル

※上記推奨モデルはあくまでも「推奨」であり、卒業必要単位数修得後の履修も含まれています。

5. 中国語

中国語と我々

近年の国際環境の変化に伴い、中国に対する国際社会の関心が一段と高まっています。隣国同士の日中両国は、経済的依存度が高まると同時に、政治的摩擦も増大しています。こうした中国をめぐる政治的、経済的、文化的諸問題について、自分の眼で観察し、正しく分析するためには、中国語の習得が不可欠です。

一方、中国への関心はこうした現代の動向のみにとどまるものではありません。日々動きつつある中国は、悠久の歴史をもつ中国でもあるからです。日常生活で身近な食べ物や生活用具、漢字、風俗・習慣さらには文学、思想その他に至るまで、中国を起源とするものは私たちの身の回りに数限りなくあります。

中国語の特質

上記のような文化的背景からすれば、中国語は私たちにとって親しみやすい言葉の一つではあります。しかし、中国語の学習は必ずしも容易ではありません。第一に、発音には日本語や英語にない要素が多く、習得に努力が必要です。第二に、たとえ日本語と同じ漢字で書き表される単語でも、意味が異なる場合が少なくありません。第三に、他の外国語のように複雑な語尾変化を暗記する必要がないかわり、文法には規則化できない部分があって、文章の解釈には習練が物をいいます。第四に、現代中国の漢字には日本とは異なる略字が数多くあり、また台湾・香港地域では筆画の多い繁体字を使用しています。このようなことから、中国語の習得には他の外国語を学ぶのと同様に、厳しい心がまえが大切だといえるでしょう。

我々の学ぶ中国語

中国は56の民族からなる多民族国家です。一般にいう中国語とは、総人口の92パーセントを占める漢民族が用いる言語を指し、中国では「漢語」と呼ばれています。中国語にはさまざまな方言があり、このうち漢民族の約7割以上の人々が使用する北方方言を基礎とした共通語を、「普通話」といいます。「普通話」の定義は、「北京音を標準音とし、北方語を基盤に据え、模範的な現代白話文（口語文）の著作を文法の規範とする共通語」というものです。テレビ、ラジオ等のメディアや公式な場では「普通話」が使用されることが多く、学校教育においても「普通話」の普及に力を入れています。

国連における公用語の一つでもある中国語の話者人口は世界で14億人以上と言われ、中国大陆、台湾の母語話者約12億人は無論のこと、世界に散らばる華僑・華人、そして第二言語として中国語を話す人々も世界各地で増加しつつあります。わが早稲田大学にも中国大陆、台湾、香港、シンガポールなどの華人圏からの留学生が数千名在学しており、みなさんも入学後、キャンパスで毎日のように中国語を耳にし、また中国語のネイティブと接触・交流する機会もたくさんあるはずです。

大学における中国語学習は文章を読む力を養い、表現法の基礎を身につけ、しっかりとした基礎の上に、さらに実力を蓄えることを目標としています。将来どのような道へ進むにせよ、中国語の学習は中国という巨大な世界との相互理解と交流の基礎となるでしょう。

(1)中国語科目案内

政治経済学部には、以下の中国語科目が設置されています。中国語の発音、文法、語彙、口頭表現を学ぶことにより、文字と音声によるコミュニケーション能力を高めると同時に、中国社会と文化に対する理解を深めることがこれらの科目全体の目標です。各自の中国語学習に対する目的および水準に応じて、適切な科目を受講してください。なお、希望クラスの水準以上の語学力があると判断された場合は、本人の希望に拘らず履修クラスの変更、もしくは履修が許可されない場合があります。

中国語のカリキュラムは、初級Ⅰ・Ⅱ、中級Ⅰ・Ⅱ、中国語実践演習Ⅰ・Ⅱ・ⅢA・ⅢBの各レベルの授業を軸に構成されています。このほか、(I) コース専用のインテンシブ科目、および入門クラスが設けられています。学生は自己の水準に基づきこの中からコース別に必修6～12単位分の科目を履修し、その後は必要に応じて上位の科目を受講する形となります。

・中国語初級Ⅰ・初級Ⅱ

初めて中国語を学ぶ未習者を対象に、中国語の発音と基礎文法の修得を目的として設けられた科目です。初級Ⅰ、初級Ⅱともに週2回の授業で構成され、原則として日本人教員とネイティブ教員がペアで担当します。それぞれ半期で修了し、初級Ⅰの単位取得後、初級Ⅱに進級できます。

・中国語インテンシブ初級Ⅰ・初級Ⅱ

未習者のために設けられた (I) コース専用クラスです。(I) コース参加者は、春・秋学期とも週4回の授業に参加し、集中的に中国語を学ぶことになります。

・中国語(初級)Ⅰ 入門

第三の外国語として中国語を学びたい学生のための科目です。中国語の発音と基礎文法を半期週2回の授業で体系的に学習します。なお中国語を外国語Ⅱ科目として選択した学生は、この授業を履修できません。

・中国語中級Ⅰ・中級Ⅱ

中級Ⅰは初級Ⅰ・Ⅱの修了者のための科目です。初級Ⅰ・Ⅱで修得した文法・語彙・発音の基礎の上に、中国語の読解力、会話力を養成します。中級Ⅰの単位を取得すれば、中級Ⅱに進級できます。

・中国語中級Ⅰ(中級上位クラス)・中級Ⅱ(中級上位クラス)

中級Ⅰ・Ⅱ(中級上位クラス)は、既習者のうち中級からの受講を希望する学生、および初級Ⅱの修了者で、通常の中級Ⅰ・Ⅱよりレベルの高い授業を受講したい学生のために設けられた科目です。(S)コースの授業では少し物足りないと思う学生には、本クラスの受講を推奨します。また、下記インテンシブ中級Ⅰを履修し終えた学生が、時間割の都合でインテンシブ中級Ⅱを履修できない場合、代わりに中級Ⅱ(中級上位クラス)を履修することが可能です。

・中国語インテンシブ中級Ⅰ・中級Ⅱ

(I)、(KI)コース参加者のために設けられた専用クラスです。(I)、(KI)コース参加者は、春・秋学期とも週4回の授業によって中国語能力のさらなる向上を目指します。

・中国語実践演習Ⅰ、中国語実践演習Ⅱ

演習形式で行われる週1回の少人数科目で、中国語の総合的な運用能力の更なる向上を目指します。中級Ⅱ(またはインテンシブ中級Ⅱ)修了、あるいは中国語検定3級合格相当の語学力を身につけていることが参加条件となります。同等の条件を備える既習者は、入学時に中国語実践演習を必修科目として選択することも可能です((KJ) コース)。

・中国語実践演習ⅢA・中国語実践演習ⅢB

中国語実践演習Ⅰ、Ⅱの修了者、あるいはそれと同等の能力を備えた学生のための、演習形式で行なわれる週1回のクラスです。中国留学に対応できる水準の中国語の総合的な運用能力を身につけることを目的とします。中国語実践演習Ⅰから履修を始めた既習者については、中国語実践演習ⅢAまでが必修科目となります。

※初級Ⅰ・初級Ⅱ、および中級Ⅰ・中級Ⅱについては、主に再履修者および復学者を対象として、それぞれ通常より半期ずらしたクラスを設けています。

・オープン科目の中国語と留学プログラム

このほか、学内で全学オープン科目として開講される多様な中国語科目を履修することもできます。詳細については、グローバルエデュケーションセンターWebサイト (<http://www.waseda.jp/inst/gec/>) を参照してください。

また早稲田大学では、中国語圏への留学について、留学先の学位を取得できるダブルディグリー（双学位制度）をはじめとした複数のプログラムを用意しており、原則留年せずに利用が可能です。また一カ月弱の短期留学プログラムも複数あります。各種留学プログラムの詳細については、留学センターWebサイト (<http://www.waseda.jp/inst/cie/>) を参照してください。

(2) 中国語科目の履修方法

(a) 未習者の履修コース

中国語の未習者、すなわち大学に入って初めて中国語の学習をスタートする学生は、中国語初級Ⅰから学び始めることになります。未習者向けの中国語科目には、週2回の授業を履修する「(S) コース」と、その倍の週4回授業を受ける「(I) コース」の2つのコースが用意されています。

「(S) コース」を選択した場合は、初級Ⅰ、初級Ⅱ、中級Ⅰの3つの授業が必修科目となり、計6単位を取得することになります。詳細は本冊子の Part 1 3.「外国語Ⅱ」の履修規則を参照してください。

また「(I) コース」を選択した場合は、1年次にはインテンシブ初級Ⅰ・Ⅱを、2年次にはインテンシブ中級Ⅰを必修科目として履修することになります。一週間の授業回数は4回です。詳細は本冊子の Part 1 3.「外国語Ⅱ」の履修規則を参照してください。

(b) 既習者（(K) コース、(KI) コース、(KJ) コース）の履修コース

中国語の既習者、すなわち大学入学以前の段階で中国語の学習経験がある学生は、以下の3つのパターンで中国語科目の履修が可能です。

大学入学以前に中国語初級レベルの基本的な文法や語彙、発音を学び、一通りの語学力を身につけている学生は、「(K) コース」として中級Ⅰからの履修が可能です。この場合、必修科目は中級Ⅰ（上位クラス）、中級Ⅱ（上位クラス）、中国語実践演習Ⅰの3科目計7単位となります。また、1年次は週4コマのインテンシブを受ける「(KI) コース」を選択することも可能です。詳細は本冊子の Part 1 3.「外国語Ⅱ」の履修規則を参照してください。

さらに大学入学以前に一定期間中国語の正規教育を受け、標準語の発音と中級レベルの語彙力、文法力などを身につけている学生は、「(KJ) コース」として中国語実践演習Ⅰから履修することが可能です。日本の中国語検定3級、もしくは中国の新HSK3級合格相当の能力が求められます。

※中国語の到達目標レベルについて

以下、中国語各科目の到達目標レベルを、日本中国語検定協会が実施する日本中国語検定[中検]、および中国国家HSK委員会が実施する新HSK[筆記]（漢語水平考試、世界各国で実施）の等級を基準に示します。新HSKは2009年度より欧州共通参照レベル（Common Reference Levels：CRL）に準じ級表示を改正しました。なおこれらの基準はあくまで到達目標を表すものであり、検定試験合格を保証するものではありません。

CRL	新 HSK	中検	政経中国語該当クラス	到達目標と学習時間、習得語彙数などの目安
A1	1級	準4級	初級Ⅰ	中国語の日常的表現と基本的な言い回しの基礎が身に付いている初級レベル。学習時間60～120時間。大学の第二外国語における初級半期終了程度。習得語彙150語以上。
A2	2級	4級	初級Ⅱ～中級Ⅰ インテンシブ初級Ⅰ	身の回りの状況や事柄について中国語で基礎的な情報交換ができるレベル。大学の第二外国語における初級一年間終了程度。学習時間120～200時間。習得語彙300～500語。
B1	3級	(3級)	中級Ⅱ インテンシブ初級Ⅱ	身近な話題について、中国語で自立して意見や説明を述べることができるレベル。大学の第二外国語における第二年度半期終了程度。学習時間200～300時間。習得語彙600～1000語。
B2	4級	3級	インテンシブ中級Ⅰ ～中国語実践演習Ⅰ	かなり広汎な範囲の話題について、中国語で明確かつ詳細に意見や説明を述べるができる中級レベル。大学の第二外国語における第二年度後期終了程度。学習時間300～500時間。 習得語彙1000～2000語。
C1	5級	2級	インテンシブ中級Ⅱ、中国語実践演習Ⅱ・ⅢA以上	複雑な話題について、中国語による明確で自然なテキスト作成と表現をマスターしている上級レベル。中国の外国人留学生向け1年修了レベルに相当。学習時間500～1000時間。習得語彙2500語以上。
C2	6級	準1級	中国語実践演習ⅢA以上	細かい意味の違いまで、中国語で流暢かつ正確に表現できる熟達したレベル。中国の外国人留学生向け課程の1500時間修了に相当。習得語彙5000語以上。中国の文系大学入学の語学力要求基準でもある。

欧州参照レベル	中検合格目安	新 HSK 目安	レベル区分	初級		中級		中級上位		中国語実践演習				インテンシブ初級		インテンシブ中級	
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	ⅢA	ⅢB	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ
A1	準4級	1級	初級1-1	①													
			初級1-2		②									⑪			
A2	4級	2級	中級1-1			③									⑫		
			中級1-2				④	⑤								⑬	
B1	(3級)	3級	中級2-1						⑥								⑭
			中級2-2							⑦							
B2	3級	4級	上級1-1								⑧						
			上級1-2									⑨					
C1	2級	5級	上級2-1										⑩				
			上級2-2														

枠組みの意味：単位を取得した場合、枠内の下位レベルまでの能力獲得が可能。

優秀な成績で単位を取得した場合、枠内の上位レベルまでの能力獲得が可能。

- ① ～ ④ “S” コース履修推奨モデル（意欲に応じて中国語実践演習科目の履修も推奨）
- ⑤ ～ ⑧ “K” コース履修推奨モデル
- ⑦ ～ ⑩ “KJ” コース履修推奨モデル
- ⑪ ～ ⑭ “I” コース履修推奨モデル
- ⑬⑭～⑦⑧ “KI” コース履修推奨モデル

※上記推奨モデルはあくまでも「推奨」であり、卒業必要単位数修得後の履修も含まれています。

6. スペイン語

新入生にスペイン語を外国語Ⅱとして選択した理由を尋ねると、国連の公用語として使用され、スペインとラテンアメリカ(18カ国)諸国の国語として広範に用いられていることを挙げる学生が多いです。しかし、これらの国々の他にも、フィリピン、アフリカの西サハラ、赤道ギニアで話されています。アメリカ合衆国の中高生の間で第Ⅰ外国語としてスペイン語を履修する学生が多いのは、マイノリティの中のマジョリティであるヒスパニック系住民を身近に感じているからです。実際、ロサンゼルスの下町のレストランではメキシコ系アメリカ人がスペイン語で注文を取っていますし、ニューヨークのブルックリンではプエルトリコ人がスペイン語の野球用語を使い、マイアミのリトル・ハバナではキューバ人がスペイン語の歌詞に合わせてサルサを踊っています。このようにスペイン語は世界で4億人以上の人々が話す地球規模の言語です。最近の選択理由で多いのはサッカーとラテン音楽です。衛星中継で生のリーガ・エスパニョーラがテレビ観戦できるようになり、サッカー少年たちは現地アナウンサーや解説者が興奮して、時には絶叫して伝えるスペイン語の意味を知りたくなったようです。また、米国のヒスパニック系ポップス、メキシコのマリアッチ、キューバのサルサ、アルゼンチンのタンゴなどのラテン系ミュージックやペルー・ボリビアのフォークローレの虜となった学生たちは、踊るだけでは飽き足らなくなりスペイン語の歌詞も覚えたいくなったようです。

一方で、スペイン語圏の政治、経済、社会に関心のある学生も増えています。開発途上にあるスペイン語圏の国々は第3世界特有の政治的混乱、貧困、汚職、暴力、環境汚染に苦しんでいます。金儲けしか眼中にない心無い人々によって豊かな熱帯雨林の伐採が行われ、環境保全が危機に直面しています。土地を持たない貧しい人々がジャングルを切り開く場合があることを考え合わせると、生態系保全は貧困問題や国の社会政策と密接に関連しているのです。「開発と環境」をうまく組み合わせた「持続可能な発展」を推進するには、第3世界が集まるラテンアメリカでの問題解決が焦眉の急といえるでしょう。そのような問題解決には、スペイン語を道具としたフィールド・ワークが欠かせません。スペイン語はスペイン語圏の文化を学習し吸収するだけの言語ではなく、世界の多くの人々が苦しんでいる政治や経済、社会の問題を解決するための有効な手段でもあるのです。

さて、学生諸君はいろいろな理由でスペイン語を履修するわけですが、果たして使いこなせるようになるのでしょうか？語学の習得に王道はないとよく言われるように勉強しなければ身につかないのは当たりまえですが、英語学習で苦勞した人でもスペイン語にはそれほどこずらないかも知れません。というのは、スペイン語は音声学的には英語と異なり、母音が日本語と酷似したア、イ、ウ、エ、オの5つしかないからです。英語の発音や聞き取りができずに絶望した人を救済する言語といえば、言い過ぎでしょうか。

歴史的にみれば、ラテン語を祖語とするロマンス語系の言語は発音・文法が類似しているため、スペイン語に習熟すればイタリア語やポルトガル語の習得もそれほど困難ではありません。しかし、英語と異なり、動詞の活用は多様なので、動詞の習得には辛抱強い反復練習が必要です。できれば休暇中にスペイン語圏を旅行し、世界には多様な民族と文化が存在することを肌で感じてほしいです。

(1) スペイン語の履修方法

スペイン語の履修方法には以下の5通りがあります。

- (a) スペイン語を初級から週2回学ぶ S コース
- (b) スペイン語を中級から週2回学ぶ(2年次は週1回) K コース
- (c) スペイン語を西語実践演習から週1回学ぶ KJ コース
- (d) スペイン語を初級から週4回学ぶ I コース
- (e) スペイン語を中級から週4回学ぶ(2年次は週1回) KI コース

(a) “S”（スタンダード）コース

インテンシブ・コース同様にスペイン語の未習者が選択するコースです。第1年次にスペイン語科目を2科目（4単位）、第2年次で1科目（2単位）、合計3科目（6単位）を履修します。第1年次で「初級Ⅰ」と「初級Ⅱ」の2科目を、第2年次で「中級Ⅰ」を履修しますが、さらに実力アップするために「中級Ⅱ」も履修することを推奨します。

《表2》

	春学期	秋学期
第1年次	「初級Ⅰ」	「初級Ⅱ」
第2年次	「中級Ⅰ」	「中級Ⅱ」（推奨）

「初級Ⅰ」と「初級Ⅱ」は、日本人と外国人教員がペアを組み、日本人教員が基礎文法・読解の授業を担当し、外国人教員が発音・読み・聞き取り・基礎会話を担当します。

「中級Ⅰ」と「中級Ⅱ」も日本人教員と外国人教員がペアで担任して、第1年次に習得した基礎力を総合的に発展させます。

(b) “K”（既習者）コース

スペイン語の既習者とは、スペイン語を日本の高等学校で3年間学んだ者、スペイン語圏の高等学校でスペイン語で学んだ者やそれに準じる語学力を有する者を指します。希望者は審査を受けて認められる必要があります。

第1年次にスペイン語中級科目を2科目（4単位）、第2年次で西語実践演習1科目（3単位）、合計3科目（7単位）を履修します。第1年次で「中級Ⅰ」と「中級Ⅱ」の2科目を、第2年次で「西語実践演習Ⅰ」を履修しますが、さらなる運用能力を養うために「西語実践演習Ⅱ」の履修を推奨します。

《表3》

	春学期	秋学期
第1年次	「中級Ⅰ」	「中級Ⅱ」
第2年次	「西語実践演習Ⅰ」	「西語実践演習Ⅱ」（推奨）

中級科目は日本人と外国人教員がペアを組み、総合的にスペイン語学習に取り組みます

(c) “KJ”（既習者上位）コース

スペイン語既習者の中で、スペイン語の運用能力が著しく高い者は、「西語実践演習Ⅰ・Ⅱ」から開始し、第2年次に「西語実践演習ⅢA」を履修します。希望者は審査を受けて認められる必要があります。

第1年次に西語実践演習を2科目（6単位）、第2年次で西語実践演習1科目（3単位）、合計3科目（9単位）を履修します。第1年次で「西語実践演習Ⅰ」と「西語実践演習Ⅱ」の2科目を、第2年次で「西語実践演習ⅢA」を履修しますが、さらなる運用能力を養うために「西語実践演習ⅢB」の履修を推奨します。

《表4》

	春学期	秋学期
第1年次	「西語実践演習Ⅰ」	「西語実践演習Ⅱ」
第2年次	「西語実践演習ⅢA」	「西語実践演習ⅢB」（推奨）

(d) “I”（インテンシブ）コース

スペイン語の未習者が集中的にスペイン語を学ぶコースです。第1年次でスペイン語科目を2科目（8単位）、第2年次で1科目（4単位）、合計3科目（12単位）を履修する集中クラスです。第1年次では「インテンシブ初級Ⅰ」「インテンシブ初級Ⅱ」の2科目を履修します。第2年次では「インテンシブ中級Ⅰ」を履修しますが、さらなる運用能力を養うために「インテンシブ中級Ⅱ」も履修することを推奨します。

《表1》

	春学期	秋学期
第1年次	「インテンシブ初級Ⅰ」	「インテンシブ初級Ⅱ」
第2年次	「インテンシブ中級Ⅰ」	「インテンシブ中級Ⅱ」（推奨）

上記のいずれの科目も日本人と外国人教員がペアを組み、総合的にスペイン語学習に取り組みます。

★「インテンシブ初級Ⅰ」、「インテンシブ初級Ⅱ」のいずれかが第1年次春学期や秋学期に不合格であれば、スタンダード・コースで必要な科目を履修します。コース変更前に合格した単位については、8ページをご確認ください。

(e) “KI”（既習者インテンシブ）コース

スペイン語の既習者が集中的にスペイン語を学ぶコースです。第1年次でスペイン語科目を2科目（8単位）、第2年次で1科目（3単位）、合計3科目（11単位）を履修する集中クラスです。第1年次では「インテンシブ中級Ⅰ」、「インテンシブ中級Ⅱ」の2科目を履修します。第2年次では「西語実践演習Ⅰ」を履修しますが、さらなる運用能力を養うために「西語実践演習Ⅱ」も履修することを推奨します。

《表5》

	春学期	秋学期
第1年次	「インテンシブ中級Ⅰ」	「インテンシブ中級Ⅱ」
第2年次	「西語実践演習Ⅰ」	「西語実践演習Ⅱ」（推奨）

中級科目は日本人と外国人教員がペアを組み、総合的にスペイン語学習に取り組みます。

★「インテンシブ中級Ⅰ」、「インテンシブ中級Ⅱ」のいずれかが第1年次春学期や秋学期に不合格であれば、“K”（既習者）コースで必要な科目を履修します。コース変更前に合格した単位は、外国語科目部門として計上されます。

(2) スペイン語科目案内

初級Ⅰ

スペイン語をアルファベットから始めて基本的語彙や表現を一通り身につけます。
日本人教員は主に基礎文法を、外国人教員は簡単な挨拶や日常会話を担当します。

初級Ⅱ

日本人教員は、「初級Ⅰ」の基礎文法を継続し、スペイン語の基本的文法の終了を目指します。外国人教員からはいろいろなシチュエーションにおける日常会話を学びます。

インテンシブ初級Ⅰ

「初級Ⅰ」に文法的補完要素が加わり、手紙やメールの書き方や会話による自己表現能力など個人的情報を発信する力を養います。

インテンシブ初級Ⅱ

「初級Ⅱ」に文法的補完要素が加わり、スペイン語の基礎文法を終了し、新聞・雑誌を読みます。会話では5分程度のプレゼンテーションができるレベルを目指します。
この科目を終えると、スペイン語圏で一人旅ができるレベルに達します。

中級Ⅰ

日本人教員は、第1年次の初級文法ではすくい上げられなかった項目を取り上げ、文法の集大成を行います。外国人教員は5分程度のプレゼンテーションができるレベルまで指導します。

中級Ⅱ

新聞・雑誌を読みます。この科目を終えると、スペイン語圏で一人旅ができるレベルに達します。

インテンシブ中級Ⅰ

学校、仕事、娯楽で使う表現ができる力を養い、スペイン語圏で生活できる程度の学力をつけます。

インテンシブ中級Ⅱ

政治経済の論文読解能力と会話力を養い、留学できる学力をつけます。

西語実践演習Ⅰ

政治経済の専門的論文の読解と専門的会話能力の養成が目標です。
スペイン語圏への留学が可能な能力がつかます。

西語実践演習Ⅱ

政治経済の論文の基本的執筆能力とディベート能力養成が目標です。
スペイン語圏の大学での授業にそれほど困難を覚えない学力を身につけます。

西語実践演習ⅢA

政治経済の専門的論文の読解、執筆、ディベート能力を高め、留学に必要な力を総合的に養成します。

西語実践演習ⅢB

留学して即、学部授業についていける能力を養成します。

入門

スペイン語を第三の外国語として初めて学ぶ者のための科目です。
基礎文法・会話を半期で修得します。

欧州共通参照 レベル (CEF)		初級		中級		西語実 践演習		西語実践 演習		インテンシブ 初級		インテンシブ 中級	
		I	II	I	II	I	II	ⅢA	ⅢB	I	II	I	II
A1	初級1-1	①								⑨			
	初級1-2		②								⑩		
A2	中級1-1			③								⑪	
	中級1-2				④								⑫
B1	中級2-1					⑤							
	中級2-2						⑥						
B2	上級1-1							⑦					
	上級1-2								⑧				

枠組みの意味：単位を取得した場合、枠内の下位レベルまでの能力獲得が可能。

優秀な成績で単位を取得した場合、枠内の上位レベルまでの能力獲得が可能。

- ・① ～ ④ “S” コース履修推奨モデル（意欲に応じて西語実践演習科目の履修も推奨）
- ・③ ～ ⑥ “K” コース履修推奨モデル
- ・⑤ ～ ⑧ “KJ” コース履修推奨モデル
- ・⑨ ～ ⑫ “I” コース履修推奨モデル
- ・⑪⑫～⑤⑥ “KI” コース履修推奨モデル

※上記推奨モデルはあくまでも「推奨」であり、卒業必要単位数修得後の履修も含まれています。

スペイン語科目案内

スペイン語を用いてスペイン語圏の政治・経済・社会・文化を学ぼう。政治経済学部には、スペイン語を用いて専門知識を学ぶことのできる演習や科目が用意されています。関心ある人は是非履修してみてください。

- アカデミックリテラシー演習(古典スペイン文学、現代スペイン文学、スペイン内戦、ラテンアメリカ文学)
- 地域文化研究（中南米）
- 政治学スペイン語文献研究

7. イタリア語 / Italian

〈魅惑の国イタリア〉

みなさんがイタリアと聞いてすぐに思い浮かべる事は何でしょう？

一番身近なところでは、**料理、サッカー、ファッション**でしょうか。それとも、世界史で習った**ローマ帝国**や、ボッティチェリ、ダ・ヴィンチ、ラファエロらに代表される**ルネサンス芸術**でしょうか。フィアットやフェラーリなどの自動車も有名ですね。もしかしたら、ヴェルディ、プッチーニなどの**オペラ**や、巨匠ヴィスコンティやフェリーニ、トルナトーレ監督の**映画作品**を思い浮かべる人もいるかもしれません。

イタリアはユネスコの**世界遺産**が最も多い国でもあります（2020年現在）。首都ローマには数々の有名な遺跡があるほか、**カトリック**の総本山**ヴァチカン**もあります。ルネサンスの開花した**フィレンツェ**や、水の都**ヴェネツィア**の魅力は言うにおよばず。世界一美しいと言われる**アマルフィ海岸**や、山地**ドロミーティ**の風景も格別です。

古代ギリシア・ローマの文芸を継承したイタリアはまた、**文学の宝庫**でもあります。『神曲』を著した**ダンテ**だけではなく、素晴らしい詩人、作家を綺羅星のごとく輩出した国なのです。

このような魅力的な文化や自然のすべてが、イタリアという国にはあります。でも、もちろんそれだけではありません。イタリア語を学びながら、イタリアのいろんな魅力を発見してみませんか。



イタリア語はどんな言葉？

イタリア語は、古代ローマの公用語である**ラテン語**から派生した「ロマンス諸語」のひとつです。イタリア共和国のほか、ヴァチカン市国、サン・マリノ共和国、スイス連邦で公用語となっており、それらの地域での使用者数は6千万人余とけて多くはありませんが、イタリアを訪れる人々、イタリアの多様な文化を学びたい多くの人たちによって、**世界中で学習されています**。そして日本に暮らす私たちは、日々の生活の中で（そうとは意識せずとも）たくさんのイタリア語に接しています。例えば、スパゲッティ、ピッツァ、カプチーノといった料理やカフェのメニュー。それに、ドレミファソラシド、ピアノ、フォルティッシモ、クレシェンド、アンダンテ、等々、基本的な音楽用語はすべてイタリア語なのです。

イタリア語はむずかしい？

イタリア語は「**ローマ字読み**」でだいたいOK。ですから、日本人にとってイタリア語は、とても**発音しやすい言葉**なのです。動詞活用などの文法は少々ややこしく感じられるかもしれませんが、それはヨーロッパの言語の多くに共通することです。ややこしい点も楽しみながら学んでいきましょう。

イタリア語は役に立つ？

様々なモチベーションでイタリア語を履修する学生がいます。西洋史や美術史を専攻する人、EUの政治・経済・産業に興味がある人、音楽やオペラが好きの人…。とくに歴史やルネサンス美術の研究を志す学生にとっては、必須の言語といえるでしょう。ですが、「何となくイタリア語の授業を取った」という人が、実は一番多いのです。はじめは「何となく」でもかまいません。新しい世界への扉を叩いてみてください。

早稲田大学は**イタリアの約20の大学と交流協定**を結んでおり(2024年現在)、ヴェネツィア、ミラノ、ボローニャ、フィレンツェ、ローマなどに、毎年20～30名前後の学生が留学しています。

イタリア語を知っていれば、イタリアの旅がずっと楽しくなるでしょうし、学びの機会も広がるでしょう。ぜひとも現地へ行ってみて、その魅力を肌で感じていただきたいと思います。まずはイタリア語のクラスで会いましょう。チャオ！

※P.38のイタリア語・朝鮮語選択の場合の注意点をご確認ください。

8. 朝鮮語 / Korean

<朝鮮語を学んでみませんか>

執筆者：山崎 亜希子(グローバルエデュケーションセンター)

朝鮮語とは？

朝鮮語は、朝鮮半島、つまり韓国（大韓民国）と北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）で使用されている言葉です。他国への移民を含めた使用者数は約7,500万人で、世界第15位の地位を占めます。韓国では「한국어(ハングゴ・韓国語)」、北朝鮮では「조선어(チョソノ・朝鮮語)」と呼ばれています。

朝鮮語で使われる文字は、「한글(ハングル)」と呼ばれます。朝鮮王朝時代の15世紀半ばに作られたハングルは、文字を作った人がわかっているという点で世界の言語からみて珍しく、合理的な制字原理が特徴的です。子音と母音のパーツを組み合わせて1文字を構成するハングルは、最初は覚えるのが少し大変かも知れません。しかし、朝鮮語は、語順や助詞の使い方が日本語に類似しており、また単語の多くを占める漢字語の発音が日本語と似ているため、日本語話者にとって学びやすい言語でもあります。

朝鮮語のカリキュラム

グローバルエデュケーションセンターでは、さまざまなレベルの朝鮮語の授業（入門／初級／準中級／中級／中上級／上級）を提供しており、授業では、話せる朝鮮語、使える朝鮮語を目指して、会話や応用練習を積極的に行います。「入門／初級」クラスを「教養外国語」として履修したのち、2年目以降は「準中級」、「中級」、「現代韓国を理解する朝鮮語読解／会話（中上級）」、「上級」へと進み、レベルアップを図りましょう。韓国の協定校で行われる短期・長期の語学研修プログラムもお勧めです。また、毎年12月には、早稲田で朝鮮語を学ぶすべての学生を対象とした「朝鮮語スピーチコンテスト」が行われます。日頃身につけた朝鮮語能力を先生とのマンツーマン指導でさらに磨き、成果を披露するチャンスです。ぜひ挑戦してみてください！



朝鮮語を学んで韓流のその先へ

朝鮮語を学ぶことは、朝鮮半島の歴史や社会、文化を理解することと切り離せない関係にあります。朝鮮語を学ぶ皆さんは、ハングルという文字に接するその瞬間から、すでに朝鮮半島の文化を理解するための大きい一歩を踏み出したと言えるでしょう。早稲田には朝鮮語の授業だけではなく、朝鮮半島と関連した多くの講義・演習科目が開設されています。そのような授業と並行して朝鮮語を学びながら、韓流に留まらず、その先の世界へと視野を広げ、さらに関心を深めてみましょう。

※P.38のイタリア語・朝鮮語選択の場合の注意点をご確認ください。

イタリア語・朝鮮語選択の場合の注意点

政治経済学部外国語Ⅱとして、イタリア語・朝鮮語を選択する場合、グローバルエデュケーションセンターで設置しているイタリア語・朝鮮語の指定クラスを履修することで、政治経済学部の「外国語Ⅱ」科目に振り替えられ、必要な単位数を取得することとなります。

イタリア語・朝鮮語ともに、1年次は初級程度、2年次は中級程度の内容を履修することになりますが、秋学期に再履修クラスがない可能性があり、再履修となった場合、履修が遅れることがありますので注意してください。

「外国語Ⅱ」を未習のイタリア語あるいは朝鮮語で履修することを第一希望とする場合、以下の注意事項をご確認ください。

1. イタリア語・朝鮮語については、グローバルエデュケーションセンターが授業の運営をしておりますので、教科書・教材等についてはグローバルエデュケーションセンター発行の『全学オープン科目履修ガイド』で必ず確認をしてください。また、休講掲示等伝達事項についてはグローバルエデュケーションセンターのホームページに掲載されるので注意してください。
2. 科目登録Web画面上の自動登録結果で、クラス、授業の曜日・時限を通知します。
3. 外国語Ⅱとしてイタリア語・朝鮮語を履修する場合でも、グローバルエデュケーションセンターに登録手続きに行く必要はありません。
4. 日程等の授業運営については、全てグローバルエデュケーションセンターの指示に従ってください。

Part 3 諸手続き

1. 英語 Writing/Reading の履修について

新入生は入学前に受験するCASECの結果に従い、レベルごとにクラスが振り分けられるため、特別な手続きの必要はありません（自動登録）。

【CASECの受験方法について】

kamoku11@list.waseda.jpというメールアドレスから送付される受験案内を参照し、2025年3月18日（火）23時:59分までに受験を完了してください。締め切り後の受験は、いかなる理由であっても認められません。

2. 外国語Ⅱ（第二外国語）の履修について

外国語Ⅱの選択は、全て（UCAROでの入学手続における「科目登録に関するアンケート」からアクセス可能な、「2025年度新入生 外国語Ⅱ（第2外国語）言語コース選択」で入力）で行なわれます。

システム上での入力に加えて、希望する語学のコースによっては、必要な書類を提出することが求められる場合があります。以下の表を参考に、アンケート回答画面での案内に従って、必要な申請をしてください。

外国語Ⅱ	対象学生	履修する語学	Web入学システム(UCARO)上 入力方法	レベルアップ 希望【対象者のみ】の申請
ドイツ語 フランス語 ロシア語 中国語 スペイン語 日本語	一般学生	未習の語学	“S” コース、または “I” コースを選択	不要
		既習の語学	希望語学の “K” コース、 “KI” コース、 “KJ” コースのいずれかを選択	要
	外国学生 入試入学者※	日本語 (外国籍学生のみ)	第一希望で「日本語」を選択	要
		出身国の言語	第一または第二希望で「母国語」の言語を選択	要
	高等学院	高等学院で 学んだ 外国語Ⅱ	原則として “K” コース、または “KI” コースを選択	不要
			上位のレベルを希望する場合は、“KJ” レベル コースを選択	要
	高等学院	高等学院で 学んだ 外国語Ⅱ以外	“S” コース、または “I” コースを選択	不要
イタリア語 朝鮮語	全学生		第一希望で「イタリア語」または「朝鮮語」を選択	不要

※ 中国指定校推薦入試入学者も含む。

3. 外国語Ⅱ選択の際の注意事項（UCARO での入学手続における「科目登録に関するアンケート」からアクセス可能な、「2025 年度新生 外国語Ⅱ（第 2 外国語）言語コース選択」で入力）

（１）「外国語Ⅱ」の選択について

- ・第一希望、第二希望とも入力が必須です。第一希望、第二希望を同一語学の別コース（例：第一希望：フランス語（S）コース、第二希望：フランス語（I）コース）にすることも可能です。希望者が多数の場合、やむを得ず第二希望の外国語となる場合があります。
- ・「レベルアップ希望【対象者のみ】」申請時には、41 ページの「レベルアップ希望【対象者のみ】の申請要領」をよく読んで手続を行ってください。
- ・イタリア語、または朝鮮語を希望する場合には、38 ページの「イタリア語・朝鮮語選択の場合の注意点」を参照してください。
- ・外国籍の学生で、自身の出身国・地域の使用語を選択する場合は、申請フォームの設問のなかで「出身国の使用言語を選択した理由」を記入してください。
- ・第一希望/第二希望が全く同じであるなど、申請内容に不備があった場合、ご希望とは異なる言語/コースになる可能性があります。十分注意してください。

（２）「外国語の学習歴」について

- ・英語以外の外国語を、高等学校（あるいはそれに相当する中等教育機関）等で履修していたことがある場合、外国語の学習歴に関する設問で該当の言語がある場合はその言語を選択してください。該当する言語がない場合は、「これらの言語の学習歴はない」を選択してください。また、レベルアップ申請が必要なコースを選択した場合は、設問の案内に従ってその内容を詳細に入力してください。早稲田大学高等学院出身者についても、ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語のうち、選択していた外国語を選択し、レベルアップ申請の設問にて、申請理由を詳細に記入してください。

《外国語コード表》

科目	コース		コード
ドイツ語	未習者	S	21
		I	24
	既習者	K	22
		K I	25
		K J	23
フランス語	未習者	S	31
		I	34
	既習者	K	32
		K I	35
		K J	33
中国語	未習者	S	41
		I	44
	既習者	K	42
		K I	45
		K J	43

科目	コース		コード
ロシア語	未習者	S	51
		I	54
	既習者	K	52
		K I	55
		K J	53
スペイン語	未習者	S	61
		I	64
	既習者	K	62
		K I	65
		K J	63
イタリア語	S		71
朝鮮語	S		A1
日本語	S		B1

S スタンダードコース

I インテンシブコース

K 既習者コース

KI 既習者インテンシブコース

KJ 既習者上位コース

4. 「レベルアップ希望【対象者のみ】」の申請要領

(UCARO での入学手続における「科目登録に関するアンケート」からアクセス可能な、「2025 年度新入生 外国語Ⅱ(第2外国語)言語コース選択」で入力)

(1) 対象者

① 一般学生(高等学院(上石神井)以外の附属・系属校出身者含む)

1. 【外国語Ⅱ】で「(K)コース」、「(KI)コース」、「(KJ)コース」を希望する学生
2. (外国籍の学生対象)【外国語Ⅱ】で日本語を選択する学生(審査時必要書類あり)

② 外国学生入試入学者(中国指定校推薦入試入学者含む)

1. 【外国語Ⅱ】で「(K)コース」、「(KI)コース」、「(KJ)コース」を希望する学生
2. (外国籍の学生対象)【外国語Ⅱ】で日本語を選択する学生(審査時必要書類あり)
3. 【外国語Ⅱ】で出身国の使用言語を選択する学生

③ 高等学院(上石神井)出身者

1. 【外国語Ⅱ】高等学院で学んだ外国語Ⅱを引き続き勉強する学生で、「(KJ)コース」を希望する学生
2. 【外国語Ⅱ】高等学院で学んだ外国語Ⅱ以外の語学を希望する学生で、「(K)コース」、「(KI)コース」、「(KJ)コース」のいずれかを希望する学生

(2) 申請方法

「Web入学システム(UCARO)」からアクセス可能な申請フォーム上で回答してください。その際、レベルアップ理由はなるべく具体的に記載してください。必須回答の項目になりますので、未記入では提出できません。

(3) 審査

【外国語Ⅱ】のレベルアップ申請

2025年3月21日(金)の新入生オリエンテーション終了後に各語学により面接、あるいは筆記試験を実施します。当日の詳細については、個別にご連絡いたします。

※参加できない場合は、事前に連絡してください(連絡先:03-3207-5617)。

(4) 必要書類

① 日本語以外の【外国語Ⅱ】のレベルアップ申請

申請時に必要な書類はございません。一方で、もし対象語学の能力試験スコアシートをお持ちの場合は、審査のため提出をお願いする場合がございますので、ご承知おきください。

② 外国籍の学生のうち【外国語Ⅱ】で日本語を選択する学生

審査の個別連絡のメールが届きました際に、履歴書(学歴を記載したもの、書式自由)を、審査時に持参してください。



早稲田大学 政治経済学部

School of Political Science and Economics,
Waseda University

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1
<https://www.waseda.jp/fpse/pse/>

TEL.03-3207-5617